

雪印メグミルクグループ

活動報告書 2010

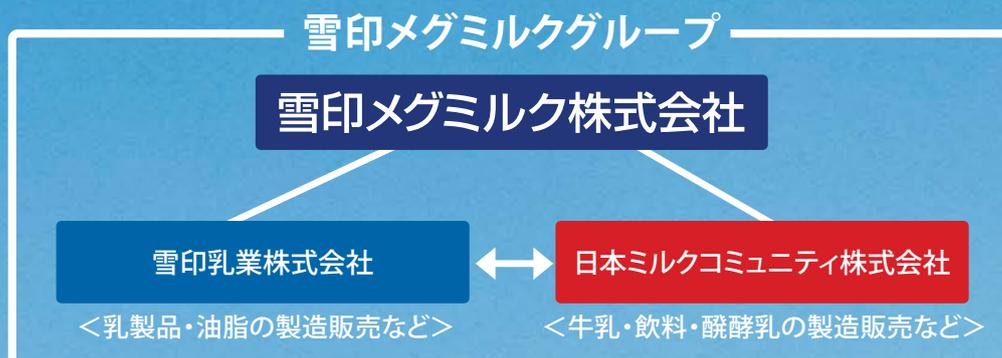
～雪印メグミルクグループ
CSRの確立に向けて～



雪印メグミルクグループ 活動報告書2010

雪印メグミルクグループが誕生して 初めての活動報告書をお届けします。

日本ミルクコミュニティ株式会社(メグミルク)と雪印乳業株式会社は
2009年10月1日をもちまして株式移転により、
共同持株会社「雪印メグミルク株式会社」を設立し、経営統合いたしました。



経営統合後、3年以内の合併を進めてまいります

雪印メグミルクグループとして初めての発行となるこの活動報告書では、雪印メグミルクグループが考える全てのステークホルダーに対して、(具体的なステークホルダーについては、P12 CSR概念図参照)以下の3点について報告することを考え、作成しています。

- ① 今後、3年以内の合併に向けて、雪印メグミルクグループとしての目指すべき方向性について伝えていくこと。
- ② 日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)の経営統合以前の取り組みと2009年10月統合後の雪印メグミルクグループとしての取り組みを報告すること。
- ③ 日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)が統合以前に取り組んできた「品質保証」「消費者重視経営」「環境保全」「コンプライアンス」などについて継続発展させた形で、雪印メグミルクグループとして取り組んでいくこと。

編集方針

本報告書は、消費者・従業員をはじめとしたステークホルダーに雪印メグミルクグループの活動をご理解いただくことを目的とし、雪印メグミルクグループが2009年度(2009年4月から2010年3月まで)に取り組んだ幅広いテーマについて総括しています。(一部、2010年4月以降の取り組みについてもお伝えしたい記事を掲載しています。)

活動報告記事(P23~P46)で、2010年3月末時点において、日本ミルクコミュニティ(株)(メグミルク)、雪印乳業(株)それぞれ独自の取り組みについては、タイトルの右脇に「MEGMILK」「雪印乳業」のロゴマークを付けて掲載しています。また、活動の主体である従業員一人ひとりの活動への思いを「私の思い!」(P23~46)や巻末(P57~58)において紹介しています。

1. わかりやすい構成・表現を心がけました

- (1) 全ての取り組みのベースはコンプライアンス、品質(安全)であり、それをベースとしてCSR*を推進していくことから、それらの項目をCSRマネジメントとしてまとめました。
- (2) 本文は平易な文章表現を心がけ、さらに説明が必要と思われる内容については詳細説明として記載しました。

2. 社外の声を反映して制作しました

- (1) 制作段階で企業倫理委員会や、その専門部会である消費者部会、消費者の方々など社外の視点でご意見をいただき、その内容を反映しました。
- (2) ステークホルダーの方々より雪印メグミルクグループの取り組みを評価いただくとともに、今後の方向性もご示唆いただきました。
- (3) 昨年発行しました「雪印グループ活動報告書2009」および「日本ミルクコミュニティ社会・環境報告書2009」も作成に活かしています。

3. お客様・消費者の併記について

雪印メグミルクグループでは、雪印乳業食中毒事件(P51)の反省を踏まえて、消費者が持つ基本的な権利を尊重することを認識し、単に「お客様」だけでなく、「消費者」全体を重視する経営を進めています。そこで消費者の中に「お客様」を位置付けた上で、「お客様」と「消費者」の2つの概念を併記して表現しています。なお、消費者基本法では消費者の8つの権利を尊重し消費者の自立を支援すること、事業者としての5つの責務を果たすことなどが基本とされています。お客様もこの「消費者」の中に含まれると考えています。

4. 社名表記について

雪印メグミルクグループ活動報告書2010では、会社名を正式名で記載しておりますが活動報告記事(P23~P46)内では、日本ミルクコミュニティ(株)を「メグミルク」と表記している場合があります。「メグミルク」は日本ミルクコミュニティ(株)のコーポレートブランド名であり、会社設立以来、多くの方々に慣れ親しんでいただいている愛称です。

おことわり

本報告書には、雪印メグミルクグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸事の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了解いただきますようお願いいたします。

CONTENTS

編集方針	2
トップメッセージ	3
雪印メグミルクグループ グループメッセージ	5
雪印メグミルクグループ行動規範	7
統合の経緯	8
経営統合後の目指す方向	9

雪印メグミルクグループのCSRマネジメント

コーポレート・ガバナンス	11
雪印メグミルクグループのCSR	12
雪印メグミルクグループの消費者重視経営	13
企業倫理活動	15
リスクマネジメント	16

特集

雪印メグミルクグループの “乳”へのこだわり	17
---------------------------	----

社会性報告

お客様・消費者に安心していただくために	23
酪農生産への貢献のために	27
おいしさと健康をお届けするために	29
「食の大切さと尊さ」と「牛乳・乳製品の価値」を 伝えるために	31
働きがいのある会社の実現のために	35

環境報告

環境保全活動の推進	37
地球温暖化を防ぐために	41
環境負荷を軽減するために	45
雪印メグミルクグループの概要	47
雪印メグミルクグループ会社紹介	49
詳細説明	51
ステークホルダーからのメッセージ	55

報告対象期間

2009年度(2009年4月1日~2010年3月31日)を対象期間としていますが、一部、2010年度の実績と将来目標についても掲載しています。

報告対象企業

本報告書における情報は、雪印メグミルクグループ(日本ミルクコミュニティ(株)および雪印乳業(株)およびその関連会社)を対象としています。ただし、対象企業全ての情報を網羅しているわけではありません。また、社名の表記のないものは、雪印メグミルクグループの取り組みを説明しています。

参考にしたガイドライン

- GR「サステナビリティレポートガイドライン(第3版)」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

発行について

- 今回の発行: 2010年6月
- 次回の発行: 2011年6月予定
- 本報告書は、年次版として毎年発行します。

お問い合わせ先

雪印メグミルク株式会社 CSR部
東京都新宿区本塩町13番地
TEL.03-3226-2064 FAX.03-3226-2163

※CSR: Corporate Social Responsibility(一般的に「企業の社会的責任」と訳されます。)

「未来は、ミルクの中にある。」

～ 雪印メグミルクグループは社会的使命を果たすべく、
CSR経営を積極的に推進してまいります。～

統合の目的

2009年10月1日、日本ミルクコミュニティ株式会社と雪印乳業株式会社は株式移転により共同持株会社「雪印メグミルク株式会社」を設立し、経営統合いたしました。

これは、「新しく、信頼され、夢のある」企業グループの船出であると思っています。この経営統合の目指す目的は、牛乳・乳飲料を主たる事業とする日本ミルクコミュニティ株式会社と乳製品を主たる事業とする雪印乳業株式会社の2社が融合することで、各社が独自では成し得なかったことを実現していくことです。

お互いの特性を生かし、シナジーの創出とイノベーションへ挑戦していくことにより、新総合乳業メーカーとしてその未来を切り拓くことができると考えております。

私は、雪印メグミルクグループの使命は、「乳(ミルク)」にこだわる、酪農生産への貢献、消費者重視経営の3つであると考えています。その思いを、グループメッセージに込め発信いたしました。グループメッセージは「未来は、ミルクの中にある。」です。

雪印メグミルクグループ全役職員が、このグループメッセージのもと、こころをひとつにして、新たな価値を創造し、皆さまの期待にお応えできる企業グループを築いてまいります。

1. 「乳(ミルク)」にこだわり、新たな価値を創造することで、社会に貢献いたします。

雪印メグミルクグループは、「『乳(ミルク)』にこだわること」を経営の重点に置きます。

ミルクに向き合い、ミルクにこだわり続けることで、ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、世界に「拡げていく」ことを実現していきます。

ミルクは、まだまだ私たちの知らない可能性を秘めています。その可能性を引き出し、新たな価値を創造していくことで、社会に貢献してまいります。

2. 「酪農生産者の想い」にこだわり、日本の酪農に貢献いたします。

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。

雪印メグミルクグループは、「酪農総合研究所」の機能強化、新たに設置した「酪農諮問委員会」等の取り組みにより、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現していくことで酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献していきます。

「乳(ミルク)」は、豊かな自然のめぐみです。我が国の高品質な「乳(ミルク)」は、良好な地球環境と酪農生産にたずさわる方々の日々の努力と熱い想いによってもたらされます。

雪印メグミルクグループは、酪農への貢献と環境保全への取り組みを同意義に捉え、グループをあげ、環境負荷軽減に向けた取り組みを強化し、環境に配慮した事業活動を継続して実践してまいります。

未来は、ミルクの中にある。
雪印メグミルク
グループ



**3.「消費者重視経営」の実践により、
皆さまの笑顔に貢献します。**

雪印メグミルクグループの消費者重視経営の根幹は、平成16年に制定された消費者基本法にあります。消費者の持つ権利に向き合い、事業者としての責務をしっかりと果して行くことが、私たち雪印メグミルクグループの消費者重視経営であると考えています。

消費者が求める安全で安心していただける商品・サービスを提供していくこと、可能な限りの情報提供、情報開示を行なうこと、消費者の声を傾聴し経営に反映していくこと、リスク管理の体制を整え不測の事態に迅速且つ適切に対応していくことを基本姿勢として、消費者重視経営を実践していくことで、皆さまの「笑顔」に貢献してまいります。

以上の3つの「使命」を社会的責任として、CSR経営の中で実現していきます。

雪印メグミルクグループは、酪農生産者と消費者と共に、ミルクの価値を高め発展していく「コミュニティ」を育ててまいります。そして、私たちの商品とともに「驚きと感動」を届けてまいります。

未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長

高野瀬 忠明

雪印メグミルクグループ グループメッセージ

未来は、ミルクの中にある。

ミルクは、人間のために何ができるか。

私たちはいつも、その思いを胸に歩いてきました。

人がすくすくと育つこと。人がいきいきと生きること。人が食べるよろこびにあふれ、日々をすすすこと。そのために、私たちはミルクとともにがんばってきました。これは、まぎれもなく私たちの大きな誇りです。でも、この星の、大地のめぐみをどんぶんに吸収したミルクにとって、その可能性は、まだまだこんなものではない。そう考えています。

その豊かな栄養価。人のからだをつくり、守る力。心を穏やかにいやす包容力。

そして、どんなものに形を変えても人をとりこにする、その底知れないおいしさ。その中には、きっと、私たちがまだ出会っていない「未知のミルク」が眠っている。そのパワーを引き出すのは、世界の誰よりもミルクを愛する私たちしかいない。そう思うのです。

雪印とメグミルクが、ひとつになるのはそのためです。食の安全という至上の責任のもとに、

それぞれの歩みのなかでみがかいた専門技術を、競いあい、高めあいたい。そののびやかな企業風土の中で、かつてない、いくつもの価値を生み出したい。ただ、そう願ったからです。

ミルクを見つめることは、未来を見つめること。

この国のミルクの健やかな成長のために、この国の酪農とともに歩んでいきたい、私たち雪印メグミルクです。

雪印メグミルク グループ

～未来を創造する新しい会社のメッセージとして～

経営統合にあたり、私たちは新しい企業グループのビジョンを示すグループメッセージを制定いたしました。そのメッセージは『未来は、ミルクの中にある。』です。

このメッセージは、私たち雪印メグミルクグループが、大地の恵みであるミルクの未知なる可能性を誰よりも信じて、生産者と消費者をつなぐコミュニティを築き、未来を切り拓いていこうとする強い思いと姿勢を表したものです。

私たちは、ミルクにこだわり続け、ミルクの可能性と価値をさらに深め、高め、広げることを通じて、未来を創造する新総合乳業メーカーを実現してまいります。

日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)は企業理念のもと、その実現に向けて事業に取り組んでいます。雪印メグミルクグループ グループメッセージは、日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)の企業理念をつなぐものです。

雪印メグミルクグループ グループメッセージ
未来は、ミルクの中にある。

日本ミルクコミュニティ株式会社

私たちは、企業理念実現の一環として
 社会・環境活動に取り組んでいます。

企業理念

自然からお客様までのミルクコミュニティを
 育み明るく健やかなくらしに貢献します。



私たちが考えるミルクコミュニティは、お客様からお取引先・販売店・生産者・株主・社員に加え、牛や大地とも共生し、自然で健康的な価値を生み出す有機的ネットワークです。

事業領域

新鮮な自然の恵みを生かし、
 おいしさ・健康・楽しさなど
 お客様の求める価値を提供する事業を行う。

中核事業 | 牛乳、加工乳、乳飲料、乳酸菌飲料、清涼飲料、
 野菜飲料、天然果汁、醗酵乳、デザート、
 生クリーム、業務用飲料の製造と販売

補完事業 | 1. バター、チーズ、農産物、加工食品の仕入販売
 2. 製造受託、物流受託、販売受託

ブランドメッセージ

笑顔のそばに

MEGMILK

メグミルクは自然の恵み。
 自然の恵みをお客様にお届けすることで、
 おいしさや安心の笑顔が広がっていきます。
 メグミルクはお客様の笑顔にいつも寄りそう
 存在でありたいと考えています。
 メグミルクはお客様に笑顔をお届けするブランド。
 笑顔のそばにメグミルク。

雪印乳業株式会社

企業理念【前文】

雪印乳業は、「乳」の持つ力を引き出すことによって、
 より健やかで明るいくらしと社会に貢献したい、
 という強い社会的使命感から創業されました。

それは昔も、今も、これからも変わらない
 私たち雪印乳業全員の原点であり、共通の願いであり、
 働き甲斐でもあります。

新生雪印乳業の出発にあたり、
 私たちは雪印乳業の商品を召し上がっていただく
 一人ひとりのお客様に必要とされる企業となること、
 酪農生産者・お取引先・株主の皆様をはじめとして、
 雪印乳業を支えていただく全ての方々との絆を
 一層深め、新しい時代・社会から求められる役割を
 遂行していくことをあらためて決意しています。

平成12年の食中毒事件、平成14年の牛肉偽装事件
 という2つの事件の反省を深く胸に刻み、
 もう一度お客様と社会のお役に立てる企業に
 なるために、ここに新しい企業理念を定めます。



企業目標
 私たち雪印乳業は
 お客様の「おいしい笑顔」のあるくらしに貢献します。

事業領域

乳製品に関連する高い専門性を生かし、
 「乳」を科学した新しい価値を引き出し、
 それによって生み出される知識と商品を提供します。

ビジョン

私たちは、お客様に「安心」「健康」「おいしさ」と「笑顔」を
 お届けする「おいしい笑顔のカンパニー」を目指します。

コーポレートメッセージ

おいしい顔。

雪印メグミルクグループ行動規範

～全ての活動の基本となるもの～

雪印メグミルクグループ行動規範

私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

- 1 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切に、誰からも信頼されるよう行動します。
- 2 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- 3 コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行います。
- 4 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに、第三者の権利を尊重します。
- 5 企業活動を通じて、社会貢献と環境保全に取り組みます。
- 6 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくります。

MEGMILK

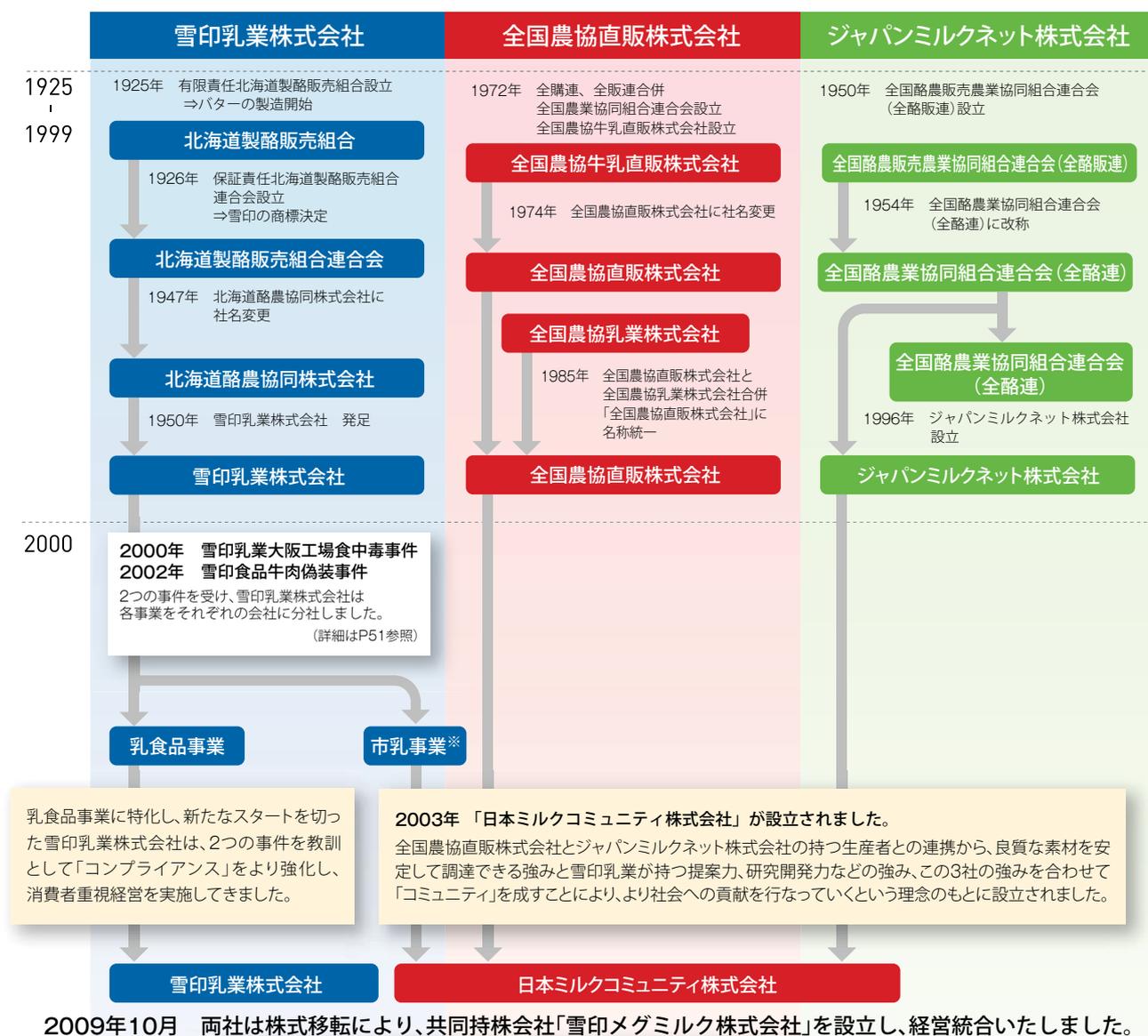
ミルクコミュニティ行動指針

 **雪印**

雪印乳業行動基準

グループ会社自主行動基準

統合の経緯



雪印メグミルク株式会社

MEGMILK
日本ミルクコミュニティ株式会社

雪印乳業
雪印乳業株式会社

統合の目的

ミルクにこだわり続け、ミルクの可能性と価値をさらに深め、高め、拡げることを通じて、
未来を創造する新総合乳業メーカーを目指すため

また、経営統合によって

- (1) 研究開発力でシナジーを創出し、単独の会社では生み出せなかった商品の提供を行なっております。
- (2) 戦略的な生産設備・マーケティング投資を実施することにより、成長路線を確実なものとして、新たな事業、海外市場への展開による成長を実現しております。
- (3) 酪農生産者とのパートナーシップを目指し、日本酪農青年研究連盟への支援、北海道包括連携協定による連携、酪農経営指導など従来の取り組みと共に、新たに酪農諮問委員会を設置し、酪農家の声を経営に反映しております。
- (4) 消費者重視経営を推進し、消費者に求められる商品を提供することはもちろん、情報開示や情報発信についてもこれまで以上に進めてまいります。

※市乳事業：牛乳、乳飲料、醗酵乳、果汁、デザート、生クリームの製造・販売

経営統合後の目指す方向 ～グループの企業価値向上に向けて～

経営ビジョン

「乳」にこだわった商品を開発し、販売してきた日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)は、今後、さらに「乳」にこだわって新しい価値を生み出す企業グループを目指します。

「生産者の想い」「消費者の笑顔」と共に、新しい「乳(New)」コミュニティを育んでいくことを目指す方向として、経営ビジョンに掲げました。

経営ビジョン実現に向け、ミルクの可能性への私たちの想いを表したものがグループメッセージ「未来は、ミルクの中にある。」です。

経営ビジョン

生産者と消費者と共に「乳(New)」コミュニティを育む

「コミュニティ」は生産者から取引先、消費者までをつなぐ有機的ネットワーク



3年以内の合併に向けた中期経営計画の概要

「雪印メグミルクグループ中期経営計画(平成21年度(2009年度)～平成25年度(2013年度))」は、経営統合により双方が持つ経営資源を一体化して、シナジー¹を創出しイノベーション²に挑戦してまいります。

- 乳酸菌研究をはじめとした研究開発機能の強化
- 戦略的な生産設備・マーケティング投資

により成長戦略を確実なものとし、併せて、新たな事業、海外市場への展開による成長を実現してまいります。

企業価値向上を推進する組織体制

雪印メグミルク(株)、日本ミルクコミュニティ(株)、雪印乳業(株)の3社は、さらなる企業価値向上を目指して3年以内の合併を進めます。このために合併プロジェクトを設置し、事業および機能分担の見直しと再編の検討を行ないます。

また、グループの組織体制は、実質的に一つの会社として機能する仕組みとし、共同持株会社の雪印メグミルク(株)がグループの経営全体をコントロールします。

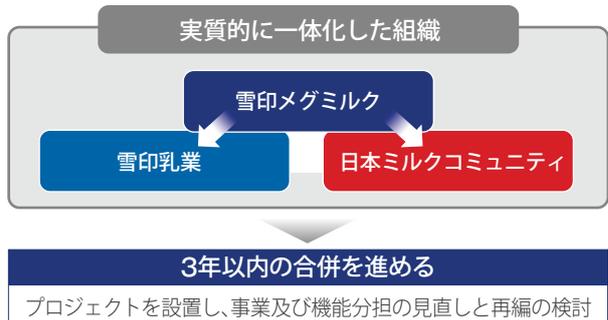
〈中期経営計画の4つのポイント〉

取り組みにおける重要ポイント

- 1 ミルク(乳)に徹底してこだわり、極める
- 2 統合シナジー効果の早期創出
- 3 研究開発力の徹底強化
- 4 イノベーションへの挑戦

- ¹シナジー：経営戦略で、各部門の相乗作用を活用した効果として利益を生み出すこと。
²イノベーション：市場の開拓、新商品の開発などによって発展するという概念。

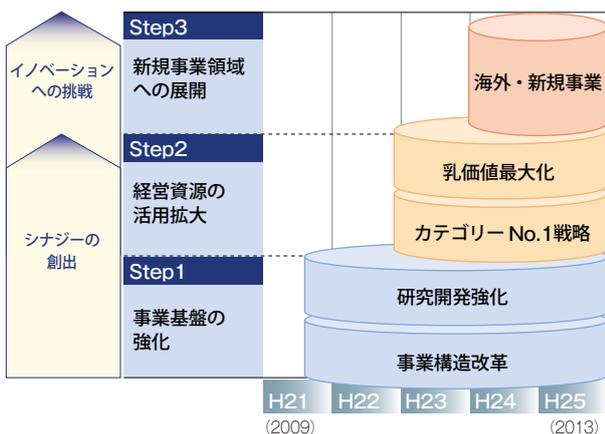
〈シナジー創出最大化のための組織体制〉



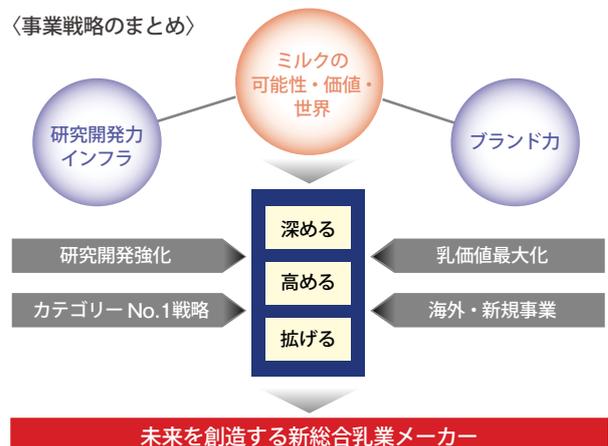
中期経営計画の基本コンセプト

- 第1ステップ** 「事業構造改革」「研究開発力強化」による事業基盤の強化
- 第2ステップ** 経営資源の活用拡大による「カテゴリー No.1戦略推進」「乳価値の最大化」
- 第3ステップ** 新規事業領域への展開としての「海外展開」「グループ事業の戦略的拡大」

〈シナジーの創出とイノベーションへの挑戦～中期経営計画の基本コンセプト〉



〈事業戦略のまとめ〉



コーポレート・ガバナンス

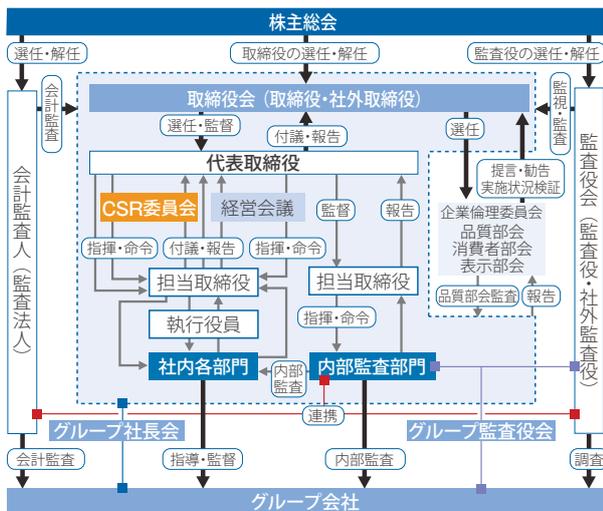
基本的な考え方

経営における透明性の確保と社外からの監視機能の強化、市場の変化に即応できる経営体制の確立を柱に企業価値を向上させていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

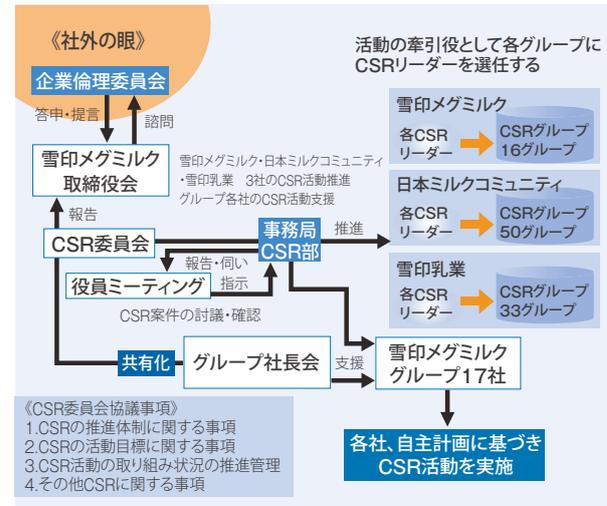
外部有識者を含む企業倫理委員会の設置、社外取締役の選任等により、経営に対する監視・監督機能の強化を図っています。

❶ コーポレート・ガバナンス(企業統治)：企業が健全な企業活動を行なうための体制。

コーポレート・ガバナンス体制図



CSR推進体制図



企業倫理委員会

「企業倫理委員会」は、取締役会の諮問機関として、社外の有識者・労働組合代表および社内委員により構成され、原則的に毎月1回定例委員会を開催し、経営全般に対して「社外の眼」による提言、勧告、検証が行なわれています。

企業倫理委員会には「品質部会」「消費者部会」「表示部会」の3つの部会が設置されており、「品質部会」は実際に工場を訪問して、社外の眼による品質監査と現場担当者

との意見交換会などを実施し、「消費者部会」は、社会や消費者が雪印メグミルクグループに求めていること、企業姿勢や活動等について、消費者関連の有識者の方々からご意見を伺う場としています。「表示部会」は商品/パッケージ等の表示内容につき、消費者視点で「優良誤認の可能性」「注意表示の表現」等についてチェックを行ないます。

企業倫理委員会についての詳細 ▶ P.51

CSR委員会

雪印メグミルクグループではCSRを推進していく経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。委員会は社長が委員長を務め、全常勤取締役ならびにCSR部長を委員とし、グループが年度で取り組んできたCSR活動の総括を行ない、次年度の活動目標および活動方針を定めています。

2009年度は、統合後、半年間の総括と2010年度に

グループ一体となったCSR経営を実践していくために、「雪印メグミルクグループCSRの基本的な考え方の浸透」を目標としました。それぞれの業務とCSRの3つの側面(経済・環境・社会)との関わりを整理し、また自らのステークホルダーを明確に認識すべく、個別CSR概念図(CSRの木)作りに取り組むことで、CSR概念の理解・浸透のベースを築いていきます。

雪印メグミルクグループのCSR

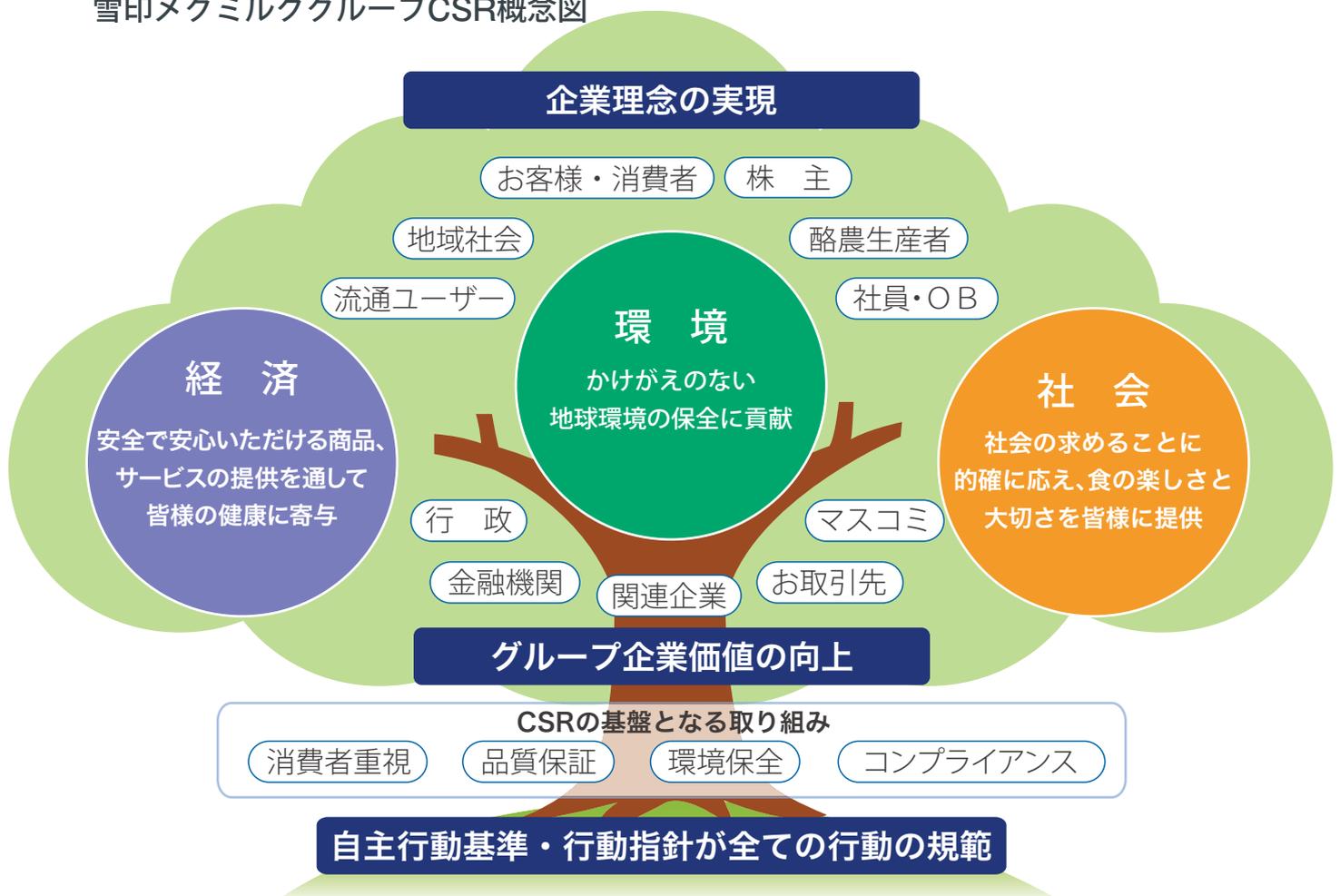
雪印メグミルクグループのCSR経営

企業活動において、CSRの3つの側面（経済・環境・社会）を考慮し、社会とのよりよい適合を図りながら共に持続的に発展していくための経営戦略を遂行する。

雪印メグミルクグループのCSR活動方針

- CSR経営のベースとなるコンプライアンス、それに基づく商品の安全（品質）の徹底を最重要項目として取り組む。
- 「消費者重視」の経営を実践していくために、消費者との対話を大切にするとともに、消費者満足を高める取り組みに注力する。
- 企業活動においてCSRの3つの側面への取り組みを明確にし、社員個々の業務に関しても、3つの側面への関わりを認識させる。
- 企業活動を進めるにあたり、「社外の眼」（企業倫理委員会等）を重視する。

雪印メグミルクグループCSR概念図



雪印メグミルクグループの消費者重視経営

消費者基本法

(平成16年制定)

消費者の『8つ』の権利

- ① 国民の消費生活における基本的な需要が満たされ、
- ② その健全な生活環境が確保される中で、
- ③ 消費者の安全が確保され、
- ④ 商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、
- ⑤ 消費者に対し必要な情報及び
- ⑥ 教育の機会が提供され、
- ⑦ 消費者の意見が消費者政策に反映され、
- ⑧ 並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されること

※条文の内容をわかり易くするために、①～⑧までの数字をつけて表記しました。

雪印メグミルク
グループの

「**4**つ」の姿勢

- ① 安全で安心していただける商品の提供
- ② 消費者への情報提供、情報開示
- ③ 消費者の声を傾聴し、経営に反映
- ④ 危機管理体制の整備により迅速、適切に対応

雪印メグミルク
グループの
「**7**つ」の取り組み

企業倫理委員会

p.11

- ・品質部会(社外視点の工場品質監査)
- ・消費者部会(消費者重視経営への意見)
- ・表示部会(消費者視点の商品表示等の確認)

品質保証体制の確立

p.25

- ・MCQS、SQSIによるPDCAと
スパイラルアップ

危機管理体制構築

p.16

- ・商品告知回収体制の確立と運営
- ・日次でのお客様センター入電状況定時報告
- ・週次でのリスク連絡会による情報共有化

向き合う

事業者の『5つ』の責務

- 1 消費者の安全及び消費者との取引における公正を確保すること。
- 2 消費者に対し必要な情報を明確かつ平易に提供すること。
- 3 消費者との取引に際して、消費者の知識、経験及び財産の状況等に配慮すること。
- 4 消費者との間に生じた苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備等に努め、当該苦情を適切に処理すること。
- 5 国又は地方公共団体が実施する消費者政策に協力すること。

※条文のまま表記しています。

消費者基本法を
根幹とした
消費者重視経営

情報開示

- ・ 活動報告
(CSRの確立に向けて)
- ・ ホームページ

お客様センター

p.23

- ・ 苦情への迅速で適切な対応
- ・ 消費者の声を傾聴
- ・ 「お客様の声実現会議」「CS向上ミーティング」の開催

お客様モニター

p.24

- ・ 消費者の声を傾聴し、消費者視点での相互理解を進める

HP運営

p.25

- ・ 消費者への情報開示、経営の透明性
- ・ ネガティブ情報も公正に開示

食育・普及

p.31

- ・ 食の大切さ、乳の大切さを伝える

企業倫理活動

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動 ～雪印の事件を風化させない～

従来、雪印乳業(株)で実施してきた「事件を風化させない活動」(1月：雪印食品牛肉偽装事件、6月：雪印乳業食中毒事件)を、今後は「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～」とし、雪印メグミルク(株)・日本ミルクコミュニティ(株)・雪印乳業(株)3社統一して実施することとしました。

日本ミルクコミュニティ(株)においても以前から、役員以下経営幹部社員を対象とした「役員・幹部社員研修」や、経営職を対象とした「コンプライアンス

責任者・副責任者およびリーダー研修」などの研修を毎年実施し、コンプライアンス意識の浸透・確立に努めていました。

今後は全役員・従業員が食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓い合うことを目的として、活動を実施していきます。

2010年1月の第1回活動は、本社での國廣弁護士による講演と本社での統一テーマとしてコンプライアンスの基礎知識を再度、確認することを目的とし、「コンプライアンステスト」を実施しました。



グループメッセージについて講話する高野瀬社長



本社での國廣弁護士による講演

事件についての詳細 ▶P.51

CSRグループ活動の実施

雪印メグミルクグループではCSR経営を推進するために、雪印メグミルク(株)、日本ミルクコミュニティ(株)、雪印乳業(株)3社の各職場にてCSRグループ活動を実施しています。

従来、日本ミルクコミュニティ(株)では、ミルクコミュニティ行動指針の浸透を図るために、全社の各職場チーム単位で、行動指針の一つひとつが自らの業務とどのような関係にあるかについて考える「ミルクコミュニティ行動指針」浸透トレーニングを、また、雪印乳業(株)では、グループCSRの浸透を図る目的で、全社の各職場をグループに分け、



各グループのCSR概念図を作成することで、CSRの浸透を図ります。

CSRグループ活動を実施してきました。

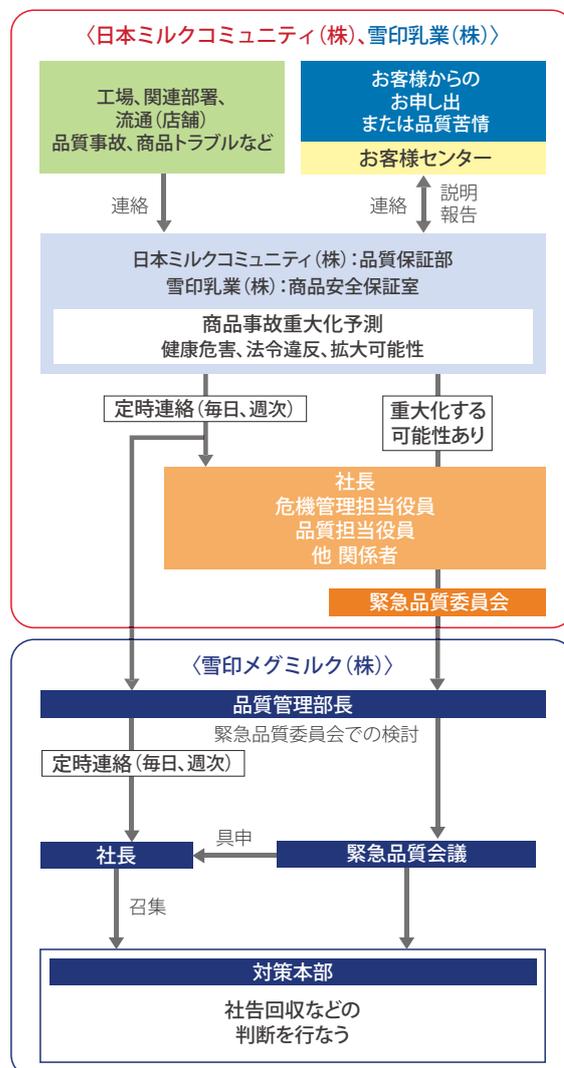
3社の統合後は、日本ミルクコミュニティ(株)を50、雪印乳業(株)を33、雪印メグミルク(株)を16グループに分け、グループ内のCSRリーダーを中心に、全社統一のテーマやグループ独自のテーマを設定し、活動しています。

リスクマネジメント

商品事故の対応

雪印メグミルクグループでは、商品事故に責任を持って対応し、お客様への健康危害や事故の拡大を最小限にするために、危機管理体制を構築しています。お客様からのお申し出は、お客様センターのデータベースに入力され、その時点で関係部署の閲覧が可能になります。重大化が予測されるお申し出や工場、店舗からの情報は、日本ミルクコミュニティ(株)では品質保証部、雪印乳業(株)では商品安全保証室に集約され、事実に基づいて評価を行います。健康危害、法令違反、拡大の可能性がある場合には、緊急品質委員会を開催し、重大性を判断します。

重大であると判断した場合には、雪印メグミルク(株)緊急品質会議で検討後、社告回収を含めた対応を雪印メグミルク(株)社長を委員長とする対策本部で最終決定します。



ホットラインの設置

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口である「雪印メグホットライン」を設置しています。また、社外通報相談窓口として、「社外(弁護士)ホットライン」も併設しています。

2つのホットラインとも、公益通報以外の法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある

重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども制限を設けず受け付けています。

また、雪印メグミルクグループ各社では全ての通報者のプライバシー保護を徹底し、機会あるごとに「ホットライン」の活用を社内に呼びかけています。

ホットラインの投稿状況についての詳細 ▶P.52

人々の健やかな暮らしに貢献する 雪印メグミルクグループの商品

雪印メグミルクグループは、「乳」にこだわった商品を通じて暮らしのさまざまな場面で「人がすくすくと育つこと。人がいきいきと生きること。人が食べるよろこびにあふれ、日々をすごすこと。」に貢献していきます。



お子さまのすこやかな成長のために

すくすくと元気に成長していただくことと、
食べることの大切さを教えるために。



1才からのチーズ



3才からのチーズ



ビーンスターク
すこやか



ビーンスターク
つよいこ



ビーンスターク
ハキラ
リンゴ味

いきいきとした暮らしをサポート

ちょっとした気分転換やリラックス
したひと時を楽しみたいときに。



業務用雪印北海道100
クリームチーズを
使ったデザート



カフェラテ
カロリーハーフ



重ね Dolce
ダブルカスタード
プリン



重ね Dolce
ベリー＆
フロマーージュブラン



クリーム＆
コーヒーゼリー



リラックスする時に



“毎日変わらないおいしさ”を

一日の良いスタートを迎えるための朝ごはん、そんな食卓を応援するために。



雪印北海道バター



ネオソフト



メグミルク牛乳



業務用シートバターを使ったクロワッサン



スライスチーズ



ナチュラル
恵 megumi



メグミルク牛乳(瓶)

毎日の健康のために

お子さまからご年配の方まで、健康なくらしに貢献するために。



グルコサミン
パワー



メガパワー



毎日骨ケア
MBP®



ヘビーチーズ



6Pチーズ



毎日骨太スキム
スティックタイプ



健康な体づくりに



おやつも楽しく、“おいしく”

一番楽しみなおやつ時間。食べることの楽しさのために。



えびと青のりせんべい



クリーム&
プリン



ハローキティ
りんご



雪印北海道100
さけるチーズ
プレーン



Dole®
オレンジ100%



なめらかプリン

楽しめるおいしさや食感

一日の疲れを癒す時、おいしいお酒とともに。



スモークチーズ



ビールにチーズ!
ガーリックチキン味



雪印北海道100
カマンベールチーズ



6Pチーズ
コクとうまみ



おつまみに

環境への配慮

メグミルクでは13工場に対して、①CO₂排出量の削減②廃棄物量の削減③リサイクル率向上について目標を設定し、環境負荷の軽減を図っています。①では、少ないエネルギーで製品ができるように、製造で使用する蒸気、温水、冷却水、圧縮空気などを造る機械を効率の良いものに随時更新しています。②では、製造時のロス削減の取り組みや、排水処理施設の改善を順次実施し汚泥の発生量を減らしています。③では、破碎洗浄機(P46参照)や圧縮梱包機[®]の導入などによりリサイクル化を促進しています。

※同一素材の容器や包材をまとめて圧縮することで体積を減らし、効率的にリサイクルできるようにしています。

日本ミルクコミュニティ(株)
生産統括部 生産技術グループ
中台 芳信



ナチュレ恵 megumi

「ナチュレ恵」は、2種類の善玉菌を使ったプレーンヨーグルトです。「ナチュレ」と共に雪印で培われた乳酸菌を活用し、コンセプト・風味を日本人向けに改良することで全く新しいプレーンヨーグルトへ生まれ変わらせました。

新しいコンセプトは「日本人のためのヨーグルト」。日本人のおなかを研究して選ばれた「ガセリ菌SP株」、「ピフィズ菌SP株」という2種類の善玉菌を使用していることと、日本人の好みに合った酸味の少ないマイルドな味という特長から「恵」というネーミングを採用しました。

これら2種類の善玉菌は、日本人の腸内から比較的多く検出される菌で、腸内に長く留まるのが特長です。特に「ガセリ菌SP株」は、ヒトの腸内に定住することが世界で初めて論文として掲載されました。

現在も「ガセリ菌SP株」、「ピフィズ菌SP株」の様々な健康効果について、研究が続けられています。



ガセリ菌SP株



ピフィズ菌SP株

商品の安全のために

安全で安心できる商品をお届けするために、検査分析手法研修や検査技能点検、異常風味サンプルを用いた全国官能試験などにより、品質管理に関わる知識と行動を取得し、検査レベルを向上させるための取り組みを実施しています。また万が一の異常事態にも迅速に対応できるよう、架空の異常品情報をもとに製造工程上の問題箇所を究明する原因追求シミュレーションや、原材料から出荷先までの履歴調査を関連部門が連携して行なうシミュレーションを定期的実施することで、お客様にお届けする商品の安全確保に努めています。

日本ミルクコミュニティ(株)
品質保証部
砂子路 真吾

特集 雪印メグミルクグループの「乳」へのこだわり

雪印メグミルクグループが「乳」へのこだわり

笑顔のそばに
MEGMILK



メグミルク牛乳

メグミルク牛乳は、日本ミルクコミュニティ(株)誕生と同時に2003年1月7日に発売されました。赤いパッケージは今までの牛乳のイメージを変えると大変話題になった商品です。

この赤いパッケージには牛乳の品質を劣化させる蛍光灯などの低波長の光をカットするという、素晴らしい性質があります。ちなみにメグミルク牛乳の赤いパッケージを、「おいしさキープバック」と呼んでいます。さらに、2007年5月からは、「メグまごころ製法」も採用。これは、生乳に含まれる酸素を低い温度でやさしく取り除くメグミルク独自の製法。この製法により、加熱殺菌ならびに光による味の変化を抑えることが可能になりました。

「おいしさキープバック」と「メグまごころ製法」、この2つの工夫で生乳本来のフレッシュなおいしさを目指しました。

おいしさへのこだわり

「新鮮でおいしい生乳本来の素晴らしいさをまもり、より多くの食卓にお届けしたい」そんな想いから生まれたのが「メグミルク牛乳」です。「おいしさキープバック」と「メグまごころ製法」、この2つの技術が、その想いを現実に行なうことができました。大自然の牧場から、生まれ変わったおいしさをお届けします。

日本ミルクコミュニティ(株)
営業統括部
商品企画開発グループ
田口 悟

お客様の声
開封後は賞味期限にかかわらず
できるだけ早めにお飲みください
と記載しているのだけど
いつ開封したか忘れてしまうのですが・・・

この声を反映して



「メグミルク牛乳1000ml」の容器に、開封日をメモする空欄を設けました。

商品を通して伝えたい「こだわり」

おいしい顔。



雪印

雪印北海道100

「雪印北海道100」は、北海道で生まれ、北海道の酪農とチーズづくりの歴史とともに歩んできた雪印が、北海道にこだわって北海道産の生乳を100%使用して、独自の技術で創り上げた、日本人の味覚に合ったチーズです。

1.「北海道」へのこだわり

北海道の豊かな自然、澄んだ空気と牧草が育んだ良質で新鮮な北海道産生乳を100%使用しています。

2.「おいしさ」へのこだわり

- ・日本のチーズの歴史を作り続けた製造技術
- ・厳選された乳酸菌を活用する醸酵技術
- ・いろいろな種類のチーズを創り出す製造技術

3.「安全・安心」へのこだわり

安全で衛生的な製造工程にこだわり、「生乳」「製造」「製品」の3段階にわたる厳しい品質管理を行なっています。



おいしさへのこだわり

おいしさを感じるのには単純に風味だけでなく、食感や食べる場面、そのときの気持ちも関わっていると考えて商品を開発しています。「雪印北海道100」の商品は、蓄積されたチーズ作りのノウハウを結集させ、お客様が安心しておいしく楽しく笑顔で召し上がっている場面を想像しながら、それぞれの食べ方に合った風味・食感に仕上げています。

雪印乳業(株)
家庭用商品部
企画グループ
村田 正樹

お客様の声
賞味期限が中央ミシン目の片側にしか記載されていないので、記載されている側から食べると、残った側の賞味期限が分からなくなってしまいます。
ミシン目の両側に賞味期限を記載して欲しい。

この声を反映して



賞味期限を2ヶ所の印字に変更し、ミシン目で切り離しても賞味期限がわかるように表示しました。

環境への配慮

雪印乳業(株)では、環境負荷の大きい生産工場の管理部署として、省エネ活動(アクションプラン)の推進や省エネ設備の導入を行なっています。環境負荷の低減には、日頃の省エネ活動・意識改革が欠かせません。主な活動としては、工場ごとに省エネ目標を定め、作業改善や設備の導入等の結果(省エネ量)を毎月報告してもらい、9工場の進捗管理を行なっています。また、設備計画立案時に、省エネ機器や新技術を積極的に導入し、生産活動での環境負荷の低減を支援しています。

雪印乳業(株)
生産部 装置技術グループ
森山 智快



6Pチーズ

バターを作り始めて3年後の昭和3年(1928年)。雪印の前身である「有限責任北海道製酪販売組合」は、チーズ作りに着手します。その後、品質改良を重ね昭和8年(1933年)に、本格的にチーズの製造・販売を開始しました。当初はゴーダチーズやエダムチーズを作っていました。昭和9年には、より日本人の好みに合わせたプロセスチーズ作りを始めます。

そして、おなじみの6Pチーズが発売されたのが、さらに翌年の昭和10年。まだ、チーズなど食べた事のない人々の多かった時代に、6個入りの小包装、青と白に英文を配したパッケージデザイン等、時代を先取りした商品でした。まさに日本のチーズの代表格ともなった感があります。現在では、独自の「芳醇ゴーダ」チーズを加えてうまみを引き立たせた「コクとうまみ」、さらに「塩分ひかえめ」、「脂肪分ひかえめ」、「北海道カマンベール入り」などのラインナップを充実しています。



お客様の声
最初に箱を開ける時、テープの色が目立たないので、なかなか探せません。
誰にでも見やすい色にしてくれたらうれしいのに。

この声を反映して



テープ柄の色を青から赤へ変更しました。パッケージ裏面表示の文字が青色なので、目立つように赤色模様の入ったテープを採用することにしました。

商品の安全のために

品質の責任を担う風土を作り上げるため、従業員全員に品質保証の基礎教育を実施しています。さらに、製造に関わる中堅社員や監督者には応用研修や監督者研修を、検査に関わる従業員に検査分析研修を行ない、各層のレベルアップを図っています。また、検査士認証制度を設け、その認証者が出荷検査を行なうことで検査結果の信頼性を高め、商品の品質確保に努めています。

雪印乳業(株)
商品安全保証室
濱崎 隆一





お客様・消費者に安心していただくために

雪印メグミルクグループは、お客様・消費者の方々へ安全で安心していただける商品を提供していくために迅速で正確な情報を発信していくはもちろん、お客様・消費者の「声」を謙虚に聴き、消費者重視の経営を推進していきます。また、安全で安心していただける商品づくりのための取り組みとして独自の品質管理システムを構築し、信頼していただける品質の実現を目指していきます。

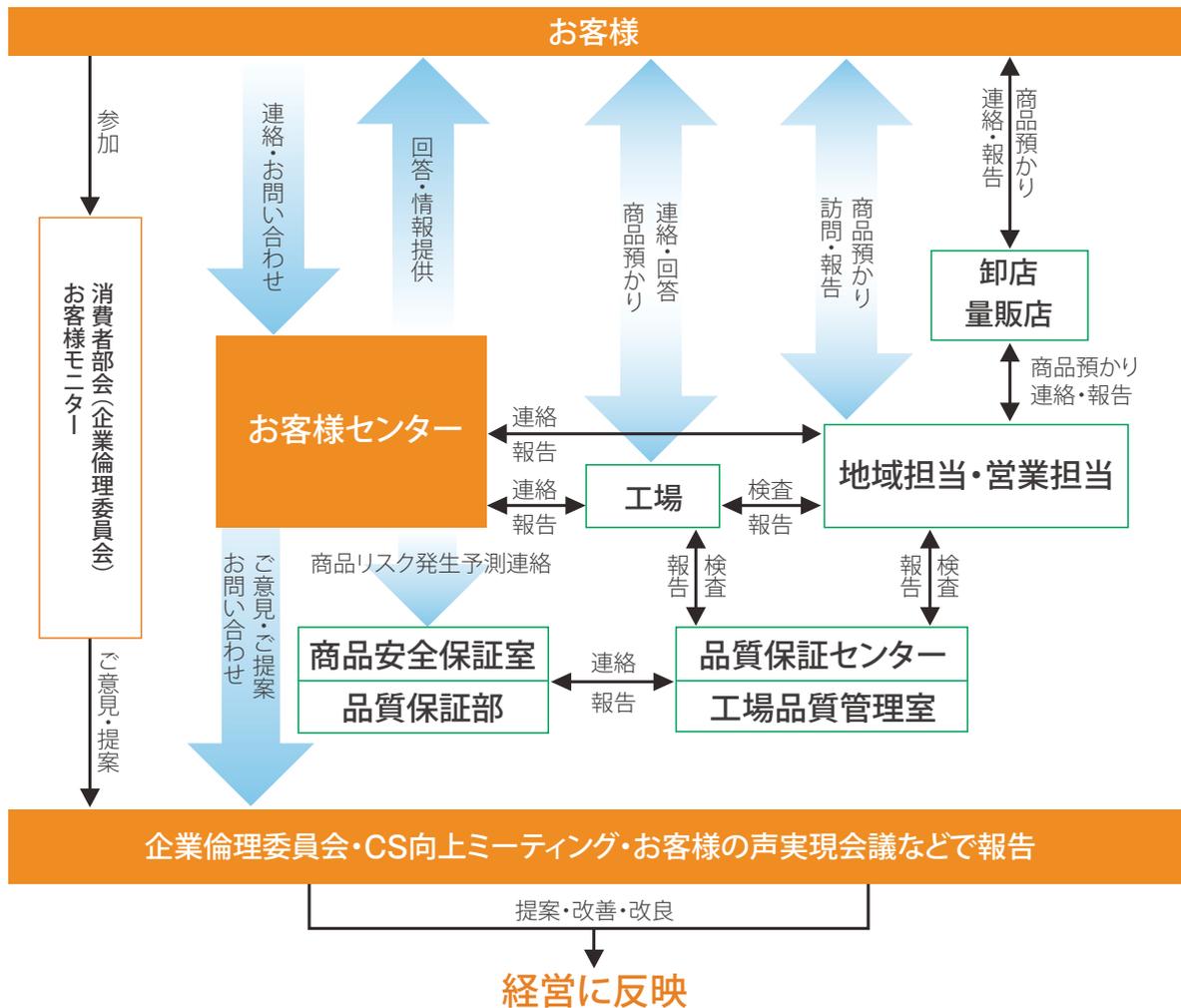
● お客様・消費者への対応

雪印メグミルクグループでは、メグミルク、雪印乳業(株)それぞれにお客様の声をお受けする「お客様センター」を開設し、電話・メール・手紙などでのお問い合わせに対して「正確・迅速・丁寧」に対応していくことを第一として考えています。

また、いただきました貴重なご意見は、社内へフィードバックし、より良い商品の提供へ役立てています。

商品検査が必要なお申し出をいただいたときは、その原因の特定から対応策のご報告まで、社内の関連部署との連携のもと、迅速な対応を行なっています。

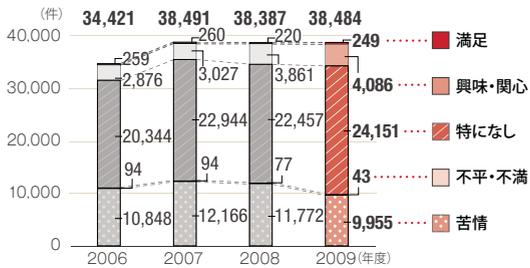
〈お客様センターの対応の流れ〉



お客様の声の受付件数

MEGMILK

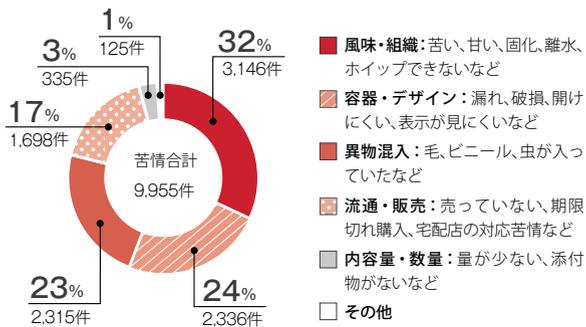
①2006～2009年度の受付件数



- 満足** : 満足していることを伝えたい
- 興味・関心** : 資料やサンプルの請求・宅配を取りたいなど
- 特になし** : 一般的な問い合わせ(商品情報・原材料・成分など)
- 不平・不満** : 日付が古い・価格が高いなど
- 苦情** : 商品・サービスなどに対するお客様の不満

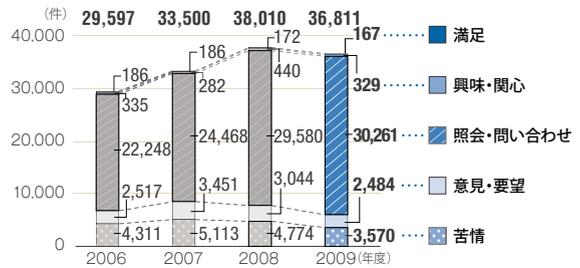
※2007年度は食の安全性への不安から苦情・問い合わせが増加しました。
 ※2008年度は苦情は微減し、宅配やキャンペーンの問い合わせが増加しました。
 ※2009年度はさらに苦情が減少し、新商品などへの問い合わせの増加により特になしが前年度より増加しました。

②①の「受付件数」のうち苦情の内訳(2009年度)



雪印

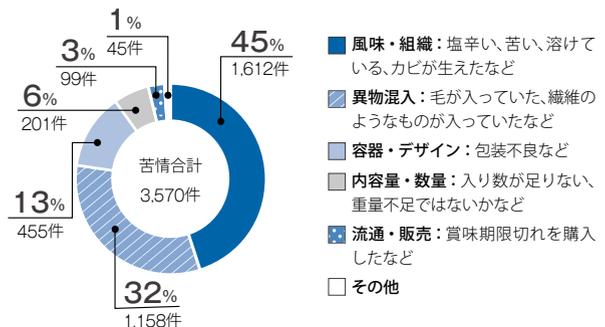
①2006～2009年度の受付件数



- 満足** : 満足している
- 興味・関心** : サンプル、資料の請求など
- 照会・問い合わせ** : 一般的な情報照会(取扱店問い合わせ、ギフト券交換など)
- 意見・要望** : 商品に関する意見・要望
- 苦情** : 対応(訪問、検査)の必要な商品苦情など

※2008年度はメラミン等に関する入電により増加しました。
 ※2009年度は12月と3月に消費者庁関連のトランス脂肪酸とキャンペーンに関連する問い合わせが増加しましたが、トータルでは前年度に比べ約3%の減少となりました。

②①の「受付件数」のうち苦情の内訳(2009年度)



お客様の声を経営に反映する仕組み

お客様の声を活かした商品の改良・改善を目的として、メグミルクは「お客様の声実現会議」、雪印乳業(株)は「CS向上ミーティング」を開催しています。

メグミルクではお客様センターを事務局として、お客様から寄せられたご意見・ご要望について、品質、マーケティング、商品開発、生産、資材部門の担当者で協議し、2009年度は飲料のストローの取り出し方を明記したり、表示を見やすくする等改善が決定したものが4件、継続して検討していくものが8件となりました。

雪印乳業(株)でもお客様センターを事務局としてお客様から寄せられたご意見やご要望62件に関して、関係部署とどのように実現できるか検討して3件が改善決定され、7件に関して継続検討することになっています。また、結果はホームページ等でご意見をいただいた皆様にお知らせしています。雪印乳業(株)ではお客

様の生の声を直接お聴きするために「お客様モニター」制度を実施しています。2009年度(第8期)は双方向のコミュニケーションをテーマにホームページや経営統合に関するご意見をいただいたり、弊社商品を使ったレシピを考案・作成いただきモニター発レシピとして雪印乳業ホームページに掲載しています。

2社のお客様センターを通じて寄せられたご意見・ご要望は、貴重な経営資源として位置付けられており、「お客様の声実現会議」「CS向上ミーティング」の結果については「企業倫理委員会(P11)」「取締役会」「本社部長会」で報告されています。



CS向上レポートはホームページに掲載し
 下記のアドレスからアクセスできます。

<http://www.snowbrand.co.jp/customer/cs/csreport.pdf>



● お客様・消費者への情報開示について

雪印メグミルクグループでは、お客様・消費者の方々にグループでの取り組みをご理解いただくために、ホームページなどで積極的な情報発信に努めています。

お客様からお問い合わせが多かった「トランス脂肪酸」については、現時点での「トランス脂肪酸」についての情報と雪印メグミルクグループとしての見解を報告しています。



WEB 詳細は下記よりご覧いただけます。
www.megmilk-snowbrand.co.jp/pressrelease

● 雪印メグミルクグループの品質についての考え方

ミルクコミュニティ品質システム(MCQS) MEGMILK

メグミルクは、「お客様の声を聴き、法令・社内基準遵守の企業倫理のもと、満足と信頼いただける品質の実現を目指し、お客様第一主義を実践します。」という品質方針のもと、良質で安全な商品をお客様にお届けするために、独自の品質マネジメントシステム「ミルクコミュニティ品質システム=MCQS」を構築しています。

商品の開発から原材料の調達、生産、流通、販売、お客様対応までのプロセスにおいて、**1**安全・安心な商品とサービスの提供、**2**品質管理教育の充実・徹底、**3**品質

監査の強化、の3つの取り組みを全社員で推進し、満足と信頼のいただける品質の実現を目指します。

〈MCQS 3つの取り組み〉



- 1** 安全・安心な商品とサービスの提供
- 2** 品質管理教育の充実・徹底
- 3** 品質監査の強化

雪印乳業品質保証システム(SQS) 雪印

雪印乳業(株)は、「雪印乳業品質保証システム(SQS)」によって、「食の安全」を確保し、「お客様に安心」していただける商品をお届けしています。SQSは、雪印乳業(株)の開発・生産・販売・管理等に携わる全ての人の品質管理活動を推進するシステムで次の5つを特徴としています。

- 1** 経営トップの強い決意とリーダーシップにより、全社員で品質保証に取り組む。
- 2** 365日、お客様センターに寄せられる“お客様の声”に耳を傾け、商品の開発・改良や製造工程の改善に反映する。
- 3** ISO9001  とHACCP  の考え方を取り入れた仕組みに基づき、品質確保および品質向上に取り組む。
- 4** 品質保証教育を徹底し、社員全員で品質を担う風土を醸成する。
- 5** 複眼によるチェックと検証により監査体制を強化する。

〈SQS(Snow Brand Quality Assurance System)の概念〉



 ISO9001：組織内で品質保証に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

 HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)：

出荷の工程であらかじめ危害を予測し、防止するための重要管理点を特定してそのポイントを継続的に監視・記録し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決するシステムです。



私の思い!

「また小野寺に任せたい」「小野寺に任せてよかった!」と安心して思ってもらえるような存在になりたいです。
 (雪印乳業(株) 東京支店 小野寺 志乃)

安全で良質な商品をお客様にお届けするために MEGMILK

メグミルクは、「お客様第一主義の実践」のため、MCQSによる3つの施策を推進しています。

①安全・安心な商品とサービスの提供

おいしく、安全・安心な商品をお届けするために、HACCP手法に基づいた製造工程の管理、新しい検査方法を取り入れた検査体制の確立、保管冷蔵庫および車両の5S^③管理による物流品質の維持・強化まで、全社一丸となって品質保証活動に取り組んでいます。

②品質管理教育の充実・徹底

社外の講演や研修だけでなく、職場や職務に応じた衛

生・品質教育(検査分析手法研修等)やeラーニング・システム^④による学習によって、品質管理に関する意識の徹底を図っています。

③品質監査の強化

社内の品質監査を強化するとともに、社外品質監査を導入し、客観的視点での品質監査も実施しています。

③ 5S：整理・整頓・清掃・清潔・しつけ

④ e-ラーニング・システム：イントラネットまたは、インターネット活用による学習システムです。24時間いつでも必要な科目を学習することが可能です。

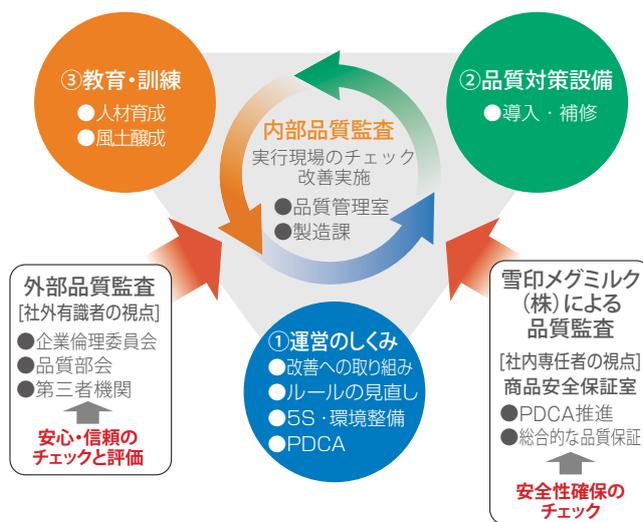
信頼される品質保証システムを目指して 雪印

雪印乳業(株)は、お客様・消費者から信頼される品質保証システムを目指して、①運営の仕組み②品質対策設備③教育・訓練の3項目を重点取り組み課題として3方向の品質監査体制(「内部の眼」「社内の眼」「社外の眼」)によりチェックし、改善に取り組んでいます。

また、SQSが適切に機能し、品質目標の達成に向けた取り組みを確認するため、定期的に階層別の委員会を開催しています。

PDCA=	P(Plan)	…… 目標と実施方法を決定
	D(Do)	…… 決めたことの実行
	C(Check)	…… 実行した内容の評価
	A(Action)	…… 結果を良くしていくための処置

〈重点取り組み課題と監査体制〉



大樹工場における取り組み 北海道包括連携協定 雪印

2009年12月18日、雪印乳業(株)大樹工場で製造している「雪印北海道100 クリームチーズ」が、同年2月の同工場製造のカマンベールチーズに引き続き「北海道HACCP自主衛生管理認証制度」で最高ランク「段階8」での認証を取得しました。

また、北海道からの「北海道HACCP」認証マーク使用許諾を受けて、同工場製造のカマンベールチーズのパッケージに「北海道



HACCP」認証マークを順次掲載し、「北海道HACCP」の普及・周知にも努めていきます。



認証書と認証取得した大樹工場の従業員



北海道HACCP認証書

ミルクのように懐の深い、雪印メグミルクの宝と言われるような人材になりたいと思います。
(日本ミルクコミュニティ(株) 神戸工場 別府 健吾)

私の思い!



酪農生産への貢献のために

雪印メグミルクグループは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、酪農の健全な発展に寄与し、「生産者の想い」にお応えすることで酪農生産へさらに貢献していきます。

酪農生産者の実践研究活動を継続的に支援

酪青研(日本酪農青年研究連盟)は、戦後間もない1948年に北海道の若き酪農生産者たちから始まった酪農の実践研究団体で、現在では約2,000人の会員を擁し全国的に活動を展開しています。雪印メグミルクグループは組織発足当時からその事務局を務め、継続的にその活動を支援しており、2009年11月に札幌で開催された第62回日本酪農研究会の運営を担いました。

研究会には全国各地から360名余の酪農生産者や

関係者が集い、経営研究発表に合わせて、消費者や流通からパネリストをお招きしてシンポジ



第62回日本酪農研究会の様子

日本酪農青年研究連盟 憲章

わたくしたちは、自らの手で酪農建設の道を切りひらいた先達の精神を受けついでつぎの憲章をかかげます。

1. 知性を磨き、連帯意識をたかめます。
1. たゆまず研鑽し、高度の経営確立につとめます。
1. 科学と実践を重んじ、国際競争にうちかちます。
1. 健康な家庭と豊かな社会をきずきます。
1. 酪農を発展させ明るい未来をひらきます。

ウム「消費者、流通が酪農生産現場に期待するもの…どう対応していくか?」を実施し、生産者と消費者の相互理解促進を図りました。



詳細は下記よりご覧いただけます。



酪青研 HP <http://www.rakuseiken.com/>

平成21年度酪総研(酪農総合研究所)シンポジウムを開催

酪総研は、雪印乳業(株)創業50周年を記念して1976年に株式会社として設立され、民間唯一の酪農専門研究機関として「わが国の酪農の発展と酪農民の生活向上に寄与する」調査、研究、普及活動を行ってきました。現在は雪印メグミルク(株)の社内研究所として、「酪農生産への貢献」をキーワードに自給飼料増産「ほじょう実証圃場」や酪農経営「実証農家」などの実践的な活動を推進しています。

2010年1月には『国内外における企業、団体等の再編動向とその対応について～変貌する市場環境において酪農乳業はどう対応していくか!!～』をテーマにシンポジウムを開催し、全国各地から酪農生産者、関係機関指導者、大学研究者、雪印メグミルクグループ担当



総合討議遠景



取り組み
アピールディスプレイ

者など約200名が参集して、直面する環境変化への対応に向けた活発な議論が交わされました。



ほじょう圃場：作物を栽培する田畑。



詳細は下記よりご覧いただけます。



酪総研 HP <http://www.rakusouken.net/>



酪農諮問委員会～酪農生産への貢献～

2010年4月14日に第1回酪農諮問委員会が開催されました。「酪農諮問委員会」は酪農生産者の声を経営に活かすために、酪農総合研究所の活動などに加え、雪印メグミルクグループの「酪農生産への貢献」に向けた取り組みの一つとして新設したものです。

今回は、初めての開催となることから、委員の皆様へ雪印メグミルクグループへのご理解を深めていただくため、雪印メグミルクグループ中期経営計画等について説明を行ない、ご意見・ご助言をいただきました。次回の開催は、2010年10月頃を予定しています。

酪農諮問委員会 委員一覧 ▶P.52



第1回酪農諮問委員会の様子

北海道での酪農振興への貢献

北海道包括連携協定

2007年10月、雪印乳業(株)、雪印種苗(株)、(株)雪印パーラーは、北海道と包括連携協定を締結し、酪農振興への貢献および乳製品製造で培った技術を活かし、「食」を中心とする様々な分野で創業の地北海道の経済活性化への寄与を目指しています。

また、経営統合による雪印メグミルクグループ発足を受け、2010年3月雪印メグミルク(株)と北海道との包括連携協定に衣替えし、雪印メグミルクグループでの取り組みへと発展させています。

雪印メグミルク(株)と北海道との包括連携協定

雪印メグミルクグループ
雪印メグミルク(株)
雪印乳業(株)
日本ミルクコミュニティ(株)
雪印種苗(株)
(株)雪印パーラー 他



具体的な取り組み内容

- ① 「酪農」の振興に関する事項
- ② 「食」の安全・安心、産消協働[※]に関する事項
- ③ 子育てや健康づくりに関する事項
- ④ 北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項
- ⑤ その他、二者間で必要と認められる事項

※「産消協働」とは、地域の「消費者」と「生産者」が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環(人、もの、お金の流れ)を高めて地域経済の活性化を図ろうという運動です。

北海道「ナチュラルチーズ製造技術研修会」の実施

北海道のナチュラルチーズ工場の品質・衛生管理のレベルをさらに向上することで、北海道産チーズによる「食」のブランドを発信したい、との北海道(庁)の思いに賛同し、北海道と雪印乳業(株)が協働して、ナチュラルチーズの製造をテーマとした「基礎研修」および「専門研修」を開催しています。

「基礎研修」では、「ナチュラルチーズ製造における衛生管理とチーズに関する基礎講座」の開講とチーズ製造に関する技術交流や工場見学を実施しています。「専門研修」では、雪印乳業(株)のチーズ研究所において製造実習を行なうことで、その技術の普及に努めています。

北海道産ナチュラルチーズ全体の品質レベルが向上し、安全で多種多様なナチュラルチーズが製造・販売されることは、北海道産ナチュラルチーズの評価の向上、ひいては北海道の乳製品全体の評価や信頼をさらに高めていくことにつながると考えています。

今後は雪印メグミルクグループとして、北海道の酪農基盤の強化と酪農・乳業の発展に少しでも貢献したいと考え、この思いのもとに取り組みを継続していきます。



北海道ナチュラルチーズ製造技術専門研修会の様子





おいしさと健康をお届けするために

雪印メグミルクグループは、乳業メーカーとして長年にわたり積みかさねた技術によりミルクの価値を提供しています。これからもミルクのもつ可能性を信じ、さらに技術を極めることで秘められた未知なる力を引き出していきます。

● 機能性素材の開発・販売

MBP®

MBP®は、昔から「骨によい」といわれてきた牛乳や母乳に微量に含まれる乳タンパク質です。骨密度を高める働きのあることを確認し、MBP®を配合した清涼飲料水「毎日骨ケアMBP®」は、特定保健用食品として認可されております。自社製品はもちろん、他社にも各種商品に幅広くご利用いただいています。

海外では、2006年にはサプリメント商品が、また2009年にはヨーグルト商品が発売されています。

新規機能性素材

MBP®に続く機能性素材として、鉄素材・ラクトフェリン素材としての「鉄・ラクトフェリン」、美肌効果を示



大変好評だった
展示会ブース

すことが確認されている「ミルクセラミド」、吸収性に優れた「ホエイペプチド」の素材販売を行なっています。2009年は「ホエイペプチド」の廃用性筋萎縮からの回復促進に関して、順天堂大学と共同で日本運動生理学会大会にて発表しました。また、「食品開発展2009」にも出展し、現在、国内の健康食品メーカー、飲料メーカー、菓子メーカー等に幅広く採用いただいています。

● 国際酪農連盟日本国内委員会「JIDF光岡賞」の受賞

雪印乳業(株)の研究者による国際酪農連盟  日本国内委員会(JIDF)の活動への貢献、および牛乳機能性タンパク質に関する研究ならびに、それに基づく食品開発や食品工業的利用に関する取り組みがJIDFから認められ、第1回「JIDF光岡賞」  を受賞しました。

受賞の対象となった研究は、ラクトフェリンやラクトパーオキシダーゼなどの牛乳中の機能性タンパク質に関するものです。この研究成果は、雪印乳業(株)およ

びメグミルクの商品に広く活用されている他、その一部は社外へ販売している機能性食品素材にも応用されています。



研究者の貢献が評価され、JIDF光岡賞を受賞しました。[左：賞名の由来である光岡知足博士]

 **国際酪農連盟**：1903年に創立された世界の酪農乳業における科学技術、経済問題に関する国際機関。2010年2月現在51カ国が加盟しており、酪農乳業に関する諸問題に世界的規模で取り組んでいます。日本は1957年に加盟しました。

 **JIDF光岡賞**：光岡知足博士(東京大学名誉教授、理化学研究所名誉研究員)が、国際酪農連盟より2007年にメチニコフ賞  を受賞された際に、授与された副賞をJIDFに全額寄付され、その基金をもとに設けられた賞です。この賞は、国際的な関係機関と連携を図り、わが国の酪農・乳業の振興に寄与することを目的としたJIDFの活動に貢献し、かつ、腸内細菌ならびにミルクの科学分野の研究で業績を上げた人に授与されます。

 **メチニコフ賞**：腸内細菌叢の重要性を指摘しつつ老化は何故起こるのかの答えを求め続けた、ノーベル医学生理学賞を受賞したロシアの免疫学者であるメチニコフの名著「長寿の研究—楽観論者のエッセイ」の出版100年目を記念して設けられた賞です。



● ガセリ菌SP株の使用商品で「第23回新技術・食品開発賞」の受賞

「ガセリ菌SP株」は雪印メグミルクグループが保有するプロバイオティクス^{Q4}乳酸菌です。これまでに、本菌株が腸管に長く留まること、本菌株を含む醗酵乳におなかの調子を整える効果があることなどを確認しており、これらの成果を特定保健用食品の開発につなげてきました。

さらに検討を進めたところ、肥満傾向にあるヒトにおいて、本菌株を含む醗酵乳が有意に内臓脂肪を低減することを確認しました。この成果は2009年7月に開

催された日本乳酸菌学会で発表しました。

また、これまで明らかにした「ガセリ菌SP株」の様々な健康効果が評価され、メグミルクが発売している、本菌株を使用した商品が日本食糧新聞社主催の「第23回新技術・食品開発賞」を受賞しました。

雪印メグミルクグループは、今後も、乳酸菌がもたらす健康効果に関する研究を続けていきます。

^{Q4} **プロバイオティクス**：食べ物として摂取できる生きた微生物で、ヒトに対して有益に作用するもの。

● マーガリンの組織に関する研究成果の発表

マーガリンの組織を悪化させ、その見た目や食感を低下させる要因の一つとして、粗大結晶の形成が知られています。粗大結晶の形成を防ぐためには、その結晶構造を明らかにして、粗大結晶の形成機構を解明することが重要となります。

雪印乳業(株)は、広島大学との共同研究により、マイ

クロビームX線回折法という手法を用いて、新たに粗大結晶の微細構造を明らかにしました。この研究成果を、2009年9月に開催された日本油化学会ならびに、国際学会(7th Euro Fed Lipid Congress. 開催国：オーストリア)にて発表しました。今後、この研究成果をもとに検討を進め、粗大結晶の形成機構を解明していきます。

● おいしさをお届けするSCMシステムの開発

雪印乳業(株)は、独自開発のSCM^{Q5}システムを導入しています。まず、生産～販売の業務改革に取り組み、在庫の削減と製品供給日程の短縮を図り、お客様へ最短期間でタイムリーに商品を供給できる「フレッシュ・ローテーション」を構築、さらに、原材料・原料乳～生産の業務改革に取り組み、季節変動が大きい原料乳の需給管理や、適度な熟成期間を必要とするナチュラルチーズの熟度管理などもシステム化しました。

このSCMシステムでフレッシュさと熟度との両面での管理を実現し、お客様によりおいしい商品をお届けしています。

本システムは、食品業界での一貫したSCMシステム開発として注目され、学会、大学講義、業界セミナー等で、開発の経緯、成果を発表しました。

^{Q5} **SCM**：サプライ・チェーン・マネジメントの略で、調達～生産～物流～販売の連鎖を統合的に管理する経営手法。



システム導入と成果について多くの関心が寄せられました。



〈SCMシステム〉





「食の大切さと尊さ」と 「牛乳・乳製品の価値」を伝えるために

雪印メグミルクグループは、乳からもたらされる力を「食の大切さと尊さ」につなげ、笑顔あふれる食生活を応援しています。またコミュニケーションを大事にし、社会からの要請にも的確に応えていきます。

● 雪印メグミルクグループの食育活動

メグミルク、雪印乳業(株)は、各々行なってきた食育活動を、経営統合を機に一本化し、2010年より「乳の食育 雪印メグミルク 食コミュニティ」として再スタートします。その目的は、下記の2つのことを伝えることです。

この2つのことを子どもたちや消費者に対面でしっかりと伝えることで、雪印メグミルクグループのCSR経営、消費者重視経営の一翼を担っていくと同時に、「生産者の想い」と「消費者の笑顔」を繋ぐことを推進していきます。

【食の大切さと尊さ】…食べることは私たちにとって極めて大切であること。特に、バランスのよい食事を摂り、自分の身体を大切にすることなど「5つの大切なこと」を育み実践していくことが大切であること。食べものは自然からの恩恵であり、ほかの生き物の尊い命をいただいて自分たちの生を繋いでいるということ。

「5つの大切なこと」▶P.52

【牛乳・乳製品の価値】…牛乳・乳製品は、日本人に不足している主な栄養素であるカルシウムを効果的に補う食品であり、「豊かな栄養価」や「おいしさ」を持ち、消費者の方々の豊かな食生活や健康づくりに貢献することができる大切な食べものであること。乳牛の「命の恵み」を原料として「牧場(酪農)」や「工場(製造工程、品質管理)」などの現場を経て、消費者に届けられる尊い食べものであること。

史料館リニューアル

札幌にある雪印乳業史料館では、酪農・乳業に関する史料や歴史を物語る牛乳・乳製品製造機器類、商品パッケージなどを展示しています。経営統合を機に2010年3月、展示をリニューアルし、見学コースを拡充しました。特に2000年の食中毒事件以降の出来事、再建に向けた雪印メグミルクグループの取り組み、経営統合により目指す姿などの展示を追加しました。併せて、一部の展示パネルや資料などを更新しました。

また、史料館が保有している蔵書や資料の一部を公開し、希望されるお客様に閲覧していただけるようにしています。

2009年度は20,268名の方に見学していただきました。



雪印乳業史料館外観



雪印乳業史料館

見学可能な工場・史料館の連絡先 ▶P.52

工場見学

雪印メグミルクグループでは、牛乳・乳製品がどのように作られ、どのように食卓まで届くか、その製造工程や流通について、また、食品の安全・安心への取り組みも併せて実際に見ていただく工場見学を行っており、近隣のご家族連れや小学校の社会科見学等を中心に多くの方に来場いただいています。2009年度は両社合わせて59,421名の方に見学していただきました。



小中学校への食育授業

雪印乳業(株)では2005年より全国で、またメグミルクは2008年より首都圏を中心に、栄養士による小中学校への食育授業を行なっています。“牛乳・乳製品メーカーならではの食育”として、独自の教材やバター・チーズ作りなどの体験を通して、『牛乳・乳製品の大切さ』『食の大切さ』を児童の皆様に伝えています。2009

年度も雪印乳業(株)・メグミルク合計で、全国134校の小中学校270クラス、11,682人の児童・生徒等を対象に食育授業を実施しました。

実施校一覧表 ▶ P.53



食の大切さを楽しく伝えます。

料理講習会

雪印乳業(株)は1950年代から乳製品の料理講習会を継続的に実施し、日本人に馴染みの薄かった乳製品の健康機能や食生活への活用方法を紹介してきました。2009年度の参加者数は、5,179名となりました。

近年、子どもたちを対象として夏休みや休日を利用した「親子・子供料理講習会」も増えており、2009年

度合計で2,356名に参加いただきました。

また、2010年度からは、牛乳やヨーグルトなどのメグミルクの商品も紹介していきます。



みんなで料理を作る楽しさ

「チーズを美味しく楽しむ会」・「骨・カルシウムセミナー」

雪印乳業(株)では、チーズのおいしさ、健康価値、楽しみ方等を知っていただくため、「チーズを美味しく楽しむ会」、骨の健康についてわかりやすく伝える「骨・カルシウムセミナー」等のセミナーを行なっています。2009年度は、セミナー全体で、12,986名の方に参加していただきました。

「チーズを美味しく楽しむ会」はホームページなどで参加者を告知募集している他、企業団体向けの出張セミナーも実施しています。(詳しくは雪印メグミルクホームページの食育コーナーをご覧ください)



丈夫な骨をつくるために

チーズを美味しく楽しむために



詳細は下記よりご覧いただけます。



<http://www.megmilk-snowbrand.co.jp/csr/syokuiku/>

地域とのコミュニケーション

JA全農農産物チャリティフェアに協賛 **MEGMILK**

JA全農農産物チャリティフェアが、日本農業への理解促進と国産農畜産物の消費拡大を目的に2009年10月31日～11月1日にNHK放送センター前広場



大好評だった牛乳サンプリング

で開催されました。メグミルクのブースの中で、メグミルク牛乳と新製品のサンプリングを実施、また、キャンペーン中だった、「農協健康菜

園シリーズ」、「日本の野菜」等の販売をしました。売上金は、全額NHK歳末たすけあいに寄付しました。

また、今回新しい試みとして、環境、リサイクルをテーマに、「牛乳パックエコ菜園」と題して、牛乳パックによる野菜栽培の展示、牛乳パック工作の展示等も実施しました。



牛乳パックでエコ菜園を作りました。



「食の大切さと尊さ」と「牛乳・乳製品の価値」を伝えるために

牛乳紙パック工作教室の実施 **MEGMILK**

メグミルクの運営するコミュニティサイト「ミルクコミュニティクラブ」では、60を超える紙パック工作を掲載しています。また「牛乳紙パック工作教室」を工場見学や公民館等で実施しています。これらはお子様に楽しくリサイクルの大切さを知ってもらう、という趣旨で実施しているものです。



紙すきハガキ作りも体験できます。

飲んだあと楽しくリサイクル



元気な朝のラジオ体操



ラジオ体操出席カード

子ども会夏休みラジオ体操への支援活動 **MEGMILK**

全国子ども会連合会が提唱する「子ども会夏休みラジオ体操」の趣旨に賛同し、この活動を支援しています。2009年は約13万人の子どもたちに「ラジオ体操出席カード」やラジオ体操の動き等を紹介した「ラジオ体操読本」を配布しました。子どもたちが朝さわやかに目覚め、朝の体操を行なうことで健康な体をつくることを応援する活動です。

メグミルク夏休みファミリーミュージカルの開催 **MEGMILK**

2009年8月28日にメルパルク大阪で恒例の「メグミルク夏休みファミリーミュージカル」を開催しました。これは、日本の将来を担う子どもたちの、食による体の健康だけではなく、健康な心の成長も願って開催しているイベントです。第1部の「ファミリーコンサート」、第2部の「オリジナルミュージカル」とも会場は大きな歓声に包まれました。親子で良い思い出を作っていただけたことと思います。



楽しい仲間たちと一緒に

● 社会への貢献

スキージャンプを通じた冬季スポーツ振興への応援

雪印メグミルクグループは、雪印杯全日本スキージャンプ大会をはじめ、数々のスキージャンプ大会に協賛し、冬季スポーツの振興を応援しています。

特に雪印杯全日本スキージャンプ大会は、成年組、少年組、ジュニア組の競技部門に近年、女子組を追加し、幅広い競技者に参加していただいている大会です。

雪印杯で好成績を収め、日本を代表する選手として世界に羽ばたいていった選手も多く、「若手ジャンパーの登竜門」として重視されてきた競技会です。

雪印メグミルクグループは初出場の中学生ジャン



将来のジャンパーを応援します。

パー(男女)の中から、思い切りの良いジャンプをした選手に特別奨励賞を贈呈し、またジャンプスポーツ少年団の子どもたちを会場に招待するなど、若手ジャンパーの育成を応援しています。

母乳や育児用粉乳を飲めないお子様のために 雪印

生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が正常ではないため、母乳や育児用粉乳を飲めないお子様がいらっしゃいます。雪印乳業(株)はこうしたお子様たちのすこやかな発育を願い、特殊ミルクを製造、供給しています。

日本では全ての赤ちゃんが生まれてすぐ血液検査を受けます。そこで代謝異常が発見されると、医師の指示に従って特殊ミルクが与えられます。これにより、赤ちゃんは他のお子様となら変わらないことなくすこやかに

に成長します。このため特殊ミルクは、患者様はもちろん、そのご家族、治療にあたられている医療関係者にとって、1日たりとも欠かすことのできないミルクなのです。

特殊ミルクの出荷量は、通常の育児用粉乳に比べわずかですが、厳格な品質管理を行ない安定供給に努めています。このような取り組みに対し、2004年には恩賜財団母子愛育会より感謝状を贈呈され、また日本先

天性代謝異常学会などの関連学会からも高い評価をいただいています。

現在、雪印乳業(株)では医薬品となっている特殊ミルク2品(写真)と厚生労働省の助成事業として特殊ミルク共同安全開発事業に登録されている特殊ミルク7品を製造、供給しています。



医薬品となっている特殊ミルクの2品

詳細 ▶ P.53

「2009食博覧会・大阪」に出展 雪印

雪印乳業(株)は、4年に1度「くだおれの街」大阪で開催される日本最大の食の博覧会「2009食博覧会・大阪」に出展しました。開催期間中は①バター作り体験②骨量測定&栄養相談③「さけるチーズのできるまで」の実演④さけるチーズの試食など多彩なイベントを行ないました。

中でも好評だったのは「さけるチーズのできるまで」で、チーズ研究所長らによる実演を行ない、一般のお客様にも多数ご参加いただきました。この実演は、工場見



盛況だった実演コーナーの様子

学でも見ることのできない珍しいイベントで、ご見学の皆様からどよめきや大きな拍手が起こり、会場は大いに盛り上がりました。



チアリーダーもレースに参加



のどを潤すサンプリングコーナー

「富里スイカロードレース大会」のメイン協賛 **MEGMILK**

メグミルク富里工場がある富里市で、6月に恒例の「富里スイカロードレース大会」が行われました。メグミルクは、工場近隣の地域貢献活動として毎年この大会に協賛しており、2009年で26回目となります。当日は11,973人(完走者11,463人)のランナーが参加し、コース途中にある名物「給スイカ所」で足を止め、富里特産の甘いスイカで渴いたのを潤しました。

走り終わったランナーへの、メグミルク「試飲コーナー」での牛乳サンプリングもこの大会の風物詩として定着しています。

直販配送(株)上尾営業所 通学児童への交通誘導

上尾営業所前には横断歩道があり、近隣小学校の通学路となっています。下校時には、その時間が一定していないこともあって、安全誘導は行なわれていませんでしたが、事業所では車の出入りもあるため、当時の所長の指示で交通誘導を開始しました。

現在では交通誘導のお兄ちゃんとして親しまれ、今

日まで20年近く続いています。児童たちによる手作りの感謝状と歌のプレゼントをいただき、これからの活動の励みになっています。



通学をあたたく見守っています。





働きがいのある会社の実現のために

雪印メグミルクグループは従業員一人ひとりが自らの成長を実感し、働きがいを感じられることこそが会社の発展にもつながっているとの考えに基づき、その実現を目指して、様々な施策を展開していきます。

● 人財育成の基本となる考え方

育成施策 **MEGMILK**

メグミルクは、人財が企業にとって最も大切な財産であるという考えのもと、企業理念である「自然からお客さままでのミルクコミュニティを育み明るく健やかなくらしに貢献します。」を実現できる教育研修を組織的、計画的に推進しています。

人事施策 **雪印**

雪印乳業(株)では、人財データベースをもとにし、「人財育成施策(CDP ・研修)の充実」「人事制度のさらなる改革」「ローテーションによるスキル・組織力の向上」を柱とした取り組みを行なっています。その他、CDPの実施【右図】、教育研修(含むOJT)、クロス人事を含むローテーション、福利厚生制度の充実、女性活躍推進活動等を通じて、全ての社員が働きがいのある会社を実現していきます。

また、次世代育成支援対策推進法に基づき、様々な子育て支援の対策を進めた結果、2008年に「くるみんマーク」を取得し、現在第2次計画に取り組んでいます。

詳細 ▶ P.54

〈研修体系〉

階層別研修	キャリアプランセミナー(S)(M)(P)、新入社員研修 新入社員牧場研修、新入社員フォローアップ
スキル研修	コーチング実践研修、会議力強化研修 トレーナー養成研修、ビジネスリーダー養成研修
部門別研修	営業、生産、ロジスティクス、管理、商品開発
職場内研修	新入社員トレーナー制
自己啓発	通信教育、大学公開講座

〈人財育成施策：CDP〉



女性活躍研修

 **CDP**：Career Development Program

 **整合性のある研修**：求められているスキル(共通・専門)に対応した研修を実施しています。

 **OJT**：現場で行なう人財開発のこと。

● メンタルヘルス研修

従来雪印乳業(株)と関連会社の社内研修として実施してきたメンタルヘルスに関するマネジメント研修をグループ共同開催とし、札幌、東京で開催しました。

8社からのべ80名が参加し、同じ場で学びました。



ストレスマネジメント研修



私の **思い!**

将来は取引先、社内から頼りにされるような営業マンになりたいです。そのために日々スピードを意識した対応、相手に対する思いやりを心がけます! (日本ミルクコミュニティ(株) 仙台支店 村山 暢)



新入社員研修

社会人として働くための基礎を学びます **MEGMILK**

メグミルクでは、しっかりとした社会人としての心構えを習得します。社会人基礎力を基本に「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を理解します。また、会社の仕組み、仕事、ルールを学び社員としての基礎固めをします。さらに、2009年度から「セルフケア」を取り入れ「ストレスの予防」にも取り組んでいます。

社会人として会社の一員としての心構えをしっかりと **雪印**

雪印乳業(株)では、ビジネスマナーや会社の歩んできた歴史を学ぶとともに、各部門の役割や連携、品質やコスト意識を体験しながら学びます。メーカーの従業員として生産現場と営業現場における長期実習を取り入れ、幅広い視野を持った人財を育成しています。2010年度は、メグミルクをはじめ、グループ会社との合同研修プログラムを取り入れ、互いに刺激を与え合いました。

酪農実習

酪農を実体験することで、ステークホルダーに対する理解を深め、同時に自分の担当業務との関わりを学びます **MEGMILK**

メグミルクでは入社3ヵ月後の新入社員を対象に、2泊3日の牧場研修を実施しています。牧場研修では「酪農実体験による生産者の仕事」「生乳の流通経路」「生産者、メグミルク、消費者のつながり」を学びます。また、新入社員の段階でミルクコミュニティにおける自分の担当業務の位置付けを確認し、生乳の尊さを業務に意味づけることで、企業理念を実現する社員の育成を目指しています。



新入社員牧場研修

乳業の原点を酪農の実作業を通して学ぶ **雪印**

雪印乳業(株)では、社内独自の通信教育により、酪農に関する基礎知識を学ぶとともに入社後3年までに酪農実習を実施しています。北海道の酪農生産者宅や横浜の「雪印こどもの国牧場」において搾乳、牛舎の糞尿処理、子牛の哺乳、バター作り体験を通じて酪農についての理解を深めます。



酪農実習

自己啓発通信教育

自ら学ぶ意欲を会社として支援

メグミルクと雪印乳業(株)は、自己啓発の通信教育を共同で実施しました。推奨する約200の各種通信教育講座から社員が自ら選択して受講します。基礎的な知識・技能の習得や、創造性豊かな教養を身につけることをねらいとし、受講料の一部を会社が補助することで、自ら学ぶ意欲をサポートしています。



自己啓発通信教育講座ガイド

コーチング実践研修

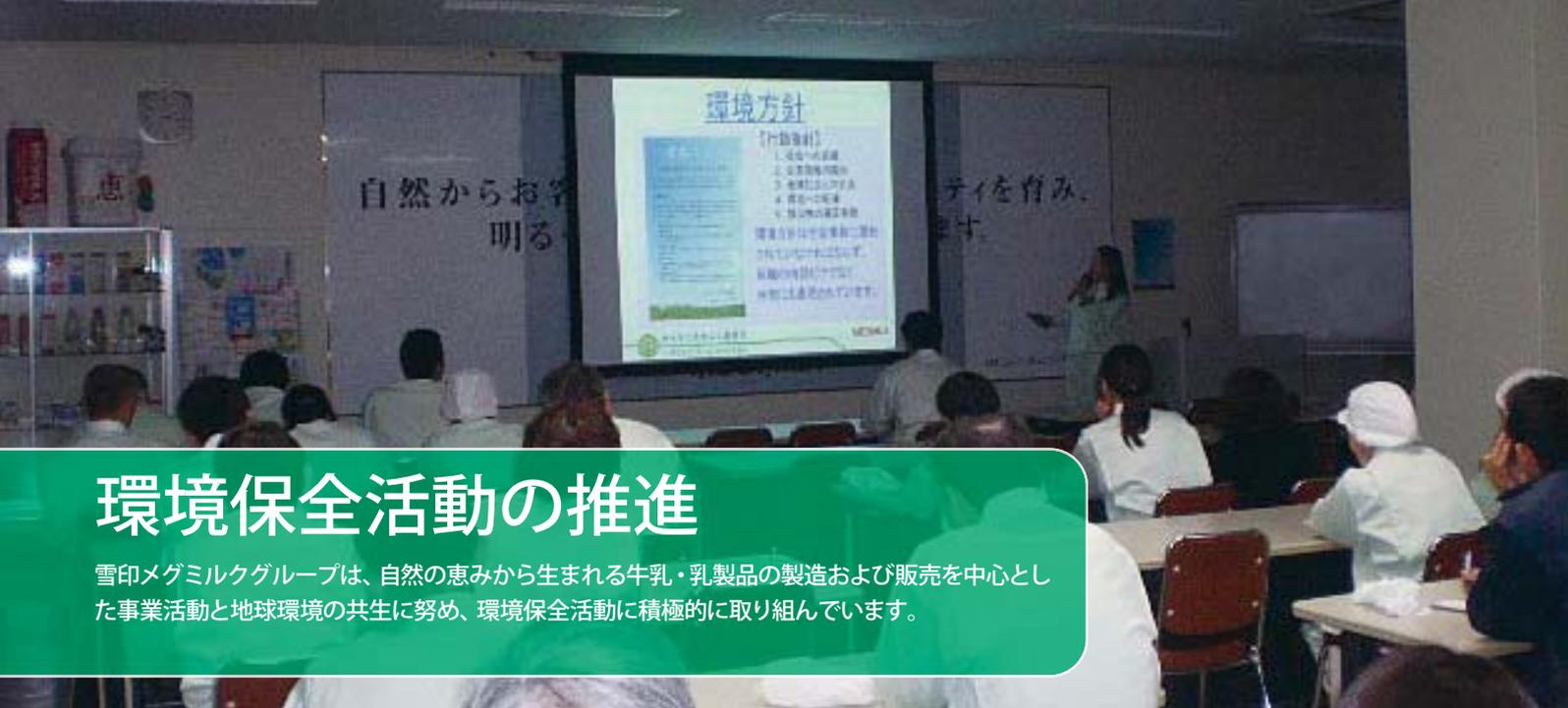
傾聴・質問スキルを学び、相手の能力を最大限に引き出します **MEGMILK**

メグミルクではチーム力強化の一環として、全経営職を対象に、個人を尊重する姿勢、個人の成長・自己実現のサポートに必要なコミュニケーションの研修を実施しています。個人の自発的行動を促し、自己実現と組織貢献との連動を促進させることで、外部環境変化に迅速に対応し、社会に貢献できる社員と組織をマネジメントできる経営職の育成を目指しています。



コーチング実践研修





環境保全活動の推進

雪印メグミルクグループは、自然の恵みから生まれる牛乳・乳製品の製造および販売を中心とした事業活動と地球環境の共生に努め、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

● メグミルクと雪印乳業(株)の環境方針

メグミルク、雪印乳業(株)両社は以下のとおり環境方針をとともに掲げ、ISO14001  認証に適応した環境マネジメントシステムを運用しています。

 **ISO14001**：組織内で環境保全に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

環境方針

「自然の恵みをたいせつにします。」

豊かな自然の恵みをお客様に安全に届けることは私たちメグミルクの社員に課せられた大切な使命です。そのために私たちは、自然の恵みをもたらす地球環境の保全に積極的に取り組み、事業活動と地球環境の共生に努めて参ります。

【行動指針】

私たちは、牛乳、果汁、ヨーグルトなどの製造および販売等に関わる事業活動を対象に環境方針、環境目的および環境目標を設定し、定期的な見直しを行うとともに、環境に対する継続的改善と汚染の予防に取り組むため、以下の指針に基づき、環境マネジメントシステムを推進します。

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会への貢献
企業活動を通しての社会貢献とともに、自然保護活動等を支援します。 2. 企業情報の開示
会社を取り巻く関係者とのコミュニケーションを図り、信頼性のある情報を適時、積極的に提供します。 3. 地域社会との交流
「開かれた工場」など、事業所において地域社会とのコミュニケーションを積極的に行います。 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 環境への配慮
地球環境を保護するため、関連する法令・規則を守ります。また、すべての企業活動において、環境への負荷の軽減を図ります。 5. 排出物の適正な処理
地域社会の環境を保護するため、法令・規則を守り、排出物を適正に処理します。さらに廃棄物については積極的に減量と再資源化を図ります。 |
|--|--|

2005年10月1日 日本ミルクコミュニティ株式会社 代表取締役社長 小原 實

環境理念



雪印乳業株式会社は、「健土健民」の創業の精神に基づき、お客様の「おいしい笑顔」のある暮らしに貢献するために、栄養価値の高い乳資源と地球環境を大切にしています。私たちは、事業活動のあらゆる場面において、積極的に環境保全活動を推進していきます。

環境方針

私たちは、私たちの行動規範である「雪印乳業行動基準」に則り、環境マネジメントシステムを確立し、安全・安心を基本にして積極的な環境負荷の低減活動を推進します。

1. すべての事業活動を通じて、エネルギー削減及び廃棄物の適正管理と再資源化率の向上を目指します。
2. 全社、事業所ごとの課題に対して環境目標を設定し、継続的改善を図ります。
3. 一人ひとりが環境保全への意識を深め、自主的に環境保全に取り組んでいきます。
4. 環境法令、条例等を遵守するとともに、法改正等に関して迅速に対応します。
5. ホームページなどを通じて積極的に環境情報を開示します。

平成18年8月15日
代表取締役社長 高野瀬 忠明



● 環境マネジメントシステム(EMS)の推進

環境保全組織

環境マネジメントシステムの推進体制においては、メグミルク、雪印乳業(株)両社とも環境保全活動の最高責任者である社長を中心として、環境目標や環境マネジメントシステムの方向性を決定し、全社で環境保全活動を行ない、環境と経営のバランスを取りながら活動の成果を創出できるよう取り組んでいます。

EMS : Environmental Management Systemの略。



全社環境会議(メグミルク)

環境監査

内部監査は、メグミルク、雪印乳業(株)両社とも事業所間でのクロスチェックにより実施し、監査員の育成を図っています。監査の指摘事項・改善などを、受審部署にフィードバックすることで、PDCAが円滑に進められるよう、継続的な業務改善をサポートしています。また第三者の目による外部審査も併せて行なっています。

PDCA : P(plan)・・・目標と実施方法を決定する計画
D(do)・・・決めたことの実行
C(check)・・・実行した内容の評価
A(action)・・・結果を改善していくための措置



外部審査(雪印乳業)



内部監査(メグミルク)

環境教育

環境教育では、メグミルク、雪印乳業(株)両社とも環境全般を勉強する一般教育を行なっています。また各種法律の実務作業を勉強する専門教育なども実施しています。



環境教育(メグミルク)



環境教育(雪印乳業)

● 雪印メグミルクグループのISO14001への取り組み

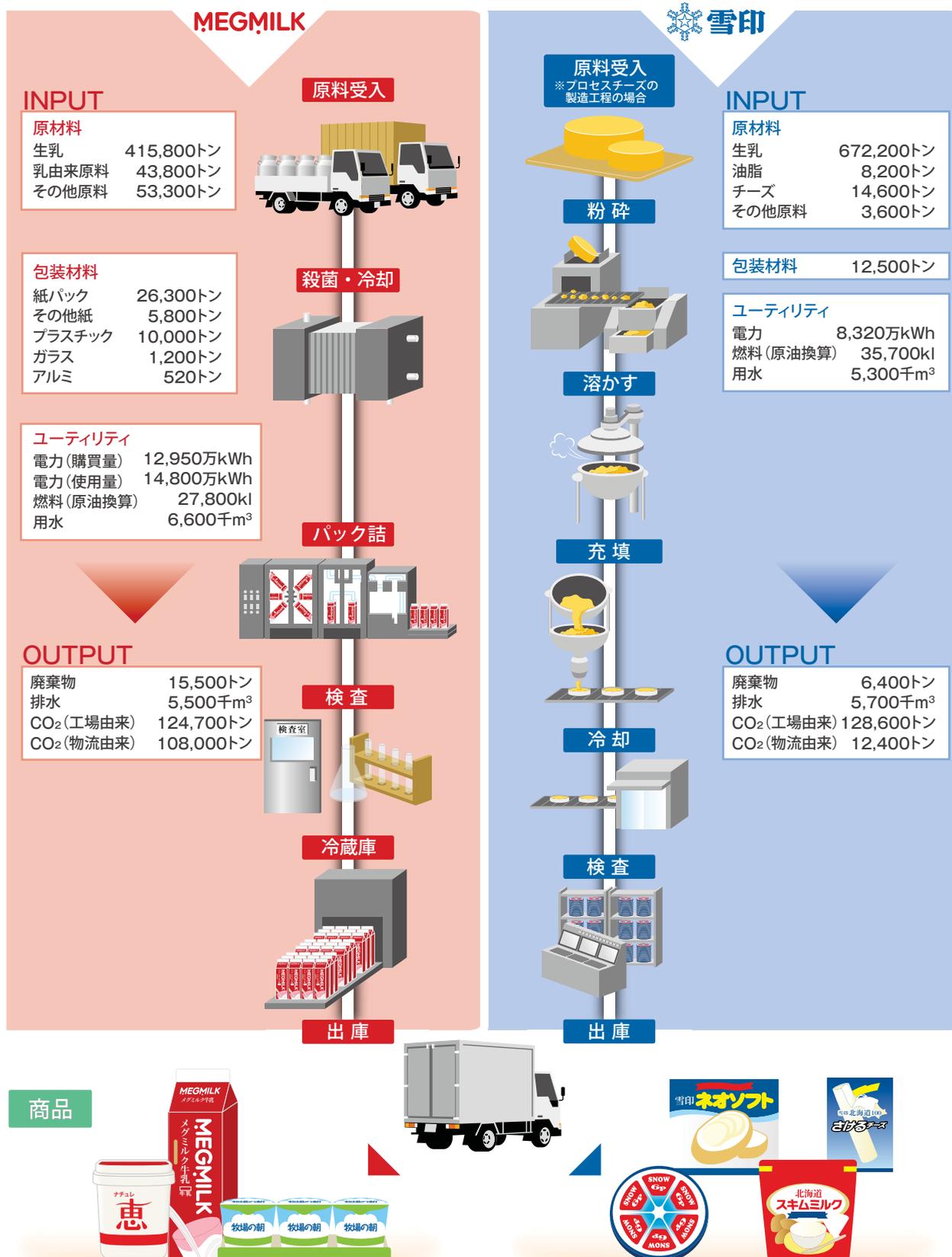
メグミルク、雪印乳業(株)は、それぞれ2007年に全社一括(マルチサイト)でISO14001認証を取得しました。また、メグミルクでは、2010年度にみちのくミルク(株)、いばらく乳業(株)に認証登録範囲を広げて取得

しました。今後はメグミルク、雪印乳業(株)で2011年度を目標にISO14001の統合認証取得に向けた準備を進めています。



● ものの流れと環境影響（マテリアルフロー）

メグミルクと雪印乳業(株)の製品の製造・輸送・消費過程で環境に与える影響を表しています。



● メグミルクと雪印乳業(株)の環境負荷の推移

MEGMILK

〈CO₂排出量と原単位〉



【2009年度の結果について】
生産量は前年比約94%に減少しましたが、CO₂排出量は約91%と大幅に抑えることができました。これに伴い、原単位も減少しました。

〈エネルギー使用量と原単位〉



【2009年度の結果について】
生産工程の見直しや燃料転換などにより、燃料使用量は前年比約93%に抑えることができ、原単位も減少しました。

〈廃棄物排出量とリサイクル率〉



【2009年度の結果について】
2011年度までにゼロエミッション(リサイクル率98%以上)の目標を掲げて、廃棄物の排出抑制と分別に取り組んでいます。

〈食品廃棄物発生量とリサイクル率〉



【2009年度の結果について】
食品廃棄物の排出抑制と飼料化・肥料化を推進したことにより、リサイクル率が大幅に向上しました。

雪印

〈CO₂排出量と原単位〉



【2009年度の結果について】
総排出量は前年度に比べ減少していますが、生産量あたりのCO₂排出原単位は増加しました。

〈エネルギー使用量と原単位〉



【2009年度の結果について】
エネルギー削減の取り組みでは、2009年度は、蒸気設備の防熱および洗浄効率の見直し等を推進しました。エネルギー量は前年比で1%減少しましたが、生産量あたりのエネルギー原単位は増加しました。

〈廃棄物排出量とリサイクル率〉



【2009年度の結果について】
廃棄物については排出抑制と分別徹底により排出量の減少が進み、リサイクル率が向上しました。

〈食品廃棄物発生量とリサイクル率〉



【2009年度の結果について】
2009年度に注力した食品リサイクルの取り組みは、食品廃棄物の排出抑制と飼料化・肥料化を推進したことによりリサイクル率が向上しました。



地球温暖化を防ぐために

雪印メグミルクグループは、地球温暖化防止へ向けた取り組みを大きな課題と捉え、CO₂の排出削減に努めています。グループをあげて省エネルギー活動、流通のモーダルシフト化など、様々な取り組みを推進しています。

● エコプロダクツ2009への参加 MEGMILK

2009年12月10日～12日の3日間、700を超える会社・団体が参加する「エコプロダクツ2009」(主催：社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社)が東京ビッグサイト(江東区)で開かれ、18万名を超える入場者がありました。エコプロダクツは、低炭素社会を目指す新しい環境技術やサービスによって、環境問題の解決につながる新しいビジネスモデルを展示するイベントです。メグミルクは、全国牛乳容器環境協議会(容環協 )のメンバーとして参加しました。ブースでは、紙パックの原料やリサイクルについてパネル展示とともに紹介し、クイズを実施しました。また、リサイクルした紙パックから作る手すきはがきの体験コーナーを設け、リサイクルに対する啓発活動を行ないました。



容環協出展ブースの様子

 **環境協**：全国の乳業メーカー、飲料用紙容器メーカー、団体会員、賛助会員など約180会員からなる紙容器に関するリサイクル活動、環境保全に取り組んでいる団体で、2010年度末までに紙パックの回収率を50%以上にするという自主目標を掲げて活動を行なっています。

● 流通のモーダルシフト推進の取り組み

メグミルク、雪印乳業(株)では、トラック輸送より環境にやさしい鉄道貨物・船舶輸送への転換(モーダルシフト)を推進しています。また、トラック輸送では、在庫拠点からの配送において、他社との共同配送の推進や車格の変更、配送コースの見直しなど、積載効率の向上への取り組みを行なっています。

雪印乳業(株)ではさらに、国土交通省よりエコレールマーク  取組企業の認定を受けています。

 **エコレールマーク**：鉄道貨物輸送を活用し、環境問題に積極的に取り組んでいる企業や商品であることを表示するものです。国土交通省は「エコレールマークでストップ!地球温暖化」をキャッチフレーズに、鉄道貨物輸送を積極的に利用している企業、商品に対し、エコレールマークを認定しています。



● チャレンジ25キャンペーンへの参加登録

メグミルクと雪印乳業(株)はこれまでそれぞれ、地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」に参加していました。今回、新たにスタートした「チャレンジ25」に引き続き登録するとともに、雪印メグミルク(株)でも新規にチャレンジャー登録し、グループ一丸となってさらなる地球温暖化防止対策を進めていきます。

チャレンジ25：2009年9月に国連気候変動サミット(ニューヨーク)において、日本は温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比25%削減すると表明しました。これを受け政府は、地球温暖化防止の対策を推進することとし、そのための国民運動を、「チャレンジ25キャンペーン」として、2010年1月14日より新たに展開しています。チャレンジ25では、行動の実践を広く国民の皆様と呼びかけています。



● 「北海道グリーン・ビズ認定制度」「さっぽろエコメンバー登録制度」

北海道包括連携協定

北海道および札幌市が連携して取り組んでいる、環境保全等への取り組みを自主的に行なっている(札幌市内および道内)事業所を登録し、広く紹介する制度である「北海道グリーンピース認定制度」と「さっぽろエコメンバー登録制度」は、ISO14001



北海道とともにエコに取り組んでいます。

認証取得し環境保全活動を行なっているメグミルクおよび雪印乳業(株)としても賛同できるものであり、両社の道内全事業所を登録しました。

北海道「北海道グリーン・ビズ認定制度 優良な取組部門」、札幌市「さっぽろエコメンバー登録制度」：札幌市内事業者は札幌市「さっぽろエコメンバー」への登録となりますが、北海道と札幌市との連携により、自動的に「北海道グリーン・ビズ認定制度 優良な取組部門」の登録事業所となります。

● 京都工場 池上製造所での取り組み MEGMILK

メグミルク京都工場池上製造所では通路照明に人感センサー付き照明器具を設置、またお客様駐車場にソーラーパネル付き照明を採用することでCO₂排出量の削減に努めています。定期的に工場の周辺や工場の排水処理水が放流される水路などの清掃活動を実施しています。

また、会議においてもモニターを使用することにより、資料の配布をなくしペーパーレス会議を実施しています。



お客様駐車場にソーラーパネル付き照明を採用



ペーパーレス会議(設備環境改善部会)

● 福岡工場での取り組み MEGMILK

メグミルク福岡工場のボイラー設備を重油焚きから都市ガス焚きに更新しました。ボイラーも燃焼効率の良いものに交換し、年間で1,700t以上のCO₂排出量を削減することができます。メグミルクでは、段階的に主要燃料を重油から都市ガスに変更しています。

福岡工場のガス化により、メグミルク13工場のうち10工場で燃料転換が完了しました。



福岡工場のボイラー



● 群馬工場での取り組み(ビーンスターク・スノー(株))

ビーンスターク・スノー(株)群馬工場では、長年使用した重油を燃料とするボイラー(8t/h×4基)から、都市ガス(13A)を燃料とする高効率大型貫流ボイラー(6t/h×6基)への更新を2009年度に実施しました。これにより、年間約3,800tのCO₂削減と約10%以上のエネルギー削減が可能となりました。また、都市ガスは硫黄分を含まないことから、硫酸化物の排

出がなく、大気汚染の防止にも貢献しています。



最新設備の導入でエコに取り組んでいます。

● 花いっぱい促進事業の支援(雪印種苗(株))

北海道包括連携協定

北海道では、「花大陸hokkaidoをめざして」をテーマに花で観光客の方々をお迎えする景観形成を促進しています。

雪印種苗(株)では北海道包括連携協定の「北海道の魅力ある『観光』の振興に関する事項」を支援していくために、花の種子を北海道の市町村へ無償配布し、協力しています。

配布した種子は赤い花をつける「クリームソクローバー くれない」紫の花をつける「アンジェリア」黄色い花をつける「キカラシ」です。これらは夏に開花し、花を楽しんだ後は土壌に還元できる緑肥として活用できます。また開花時期が異なる「ワイルドフラワー」は種子をミックスさせた、四季折々の花を楽しめます。

2010年度からは、北海道と雪印メグミルクグループによる道庁「赤れんが庁舎前庭」での花壇設置の取り組みにて、花いっぱいの北海道に協力していきます。

年間40万人が訪れる観光スポットである道庁「赤れんが庁舎」の魅力向上を図り、もって北海道の花観光の振興に資することを目的とするもので、雪印種苗(株)はその技術力を活かし、花壇の設計・施工・管理に引き続き協力していきます。



多くの花たちが、北海道でお待ちしています。

● 日常業務と一体化した社会貢献活動((株)YBS・(株)エスアイシステム)

(株)YBSでは、ペットボトルのキャップを回収し、恵まれない世界の子どもたちにワクチンが届けられる取り組みを、雪印乳業(株)と共同で2009年より雪印乳業(株)本社ビルにて開始しました。

開始から2010年1月までの累計でキャップ73,600個、BCGワクチン換算で92人分相当を提供、CO₂削減効果でも580kgの貢献ができました。2009年9月からは、雪印乳業(株)北海道支店ビルでも実施しています。

(株)エスアイシステムでも、2008年よりNPO法人エコキャップ推進協会が実施する「エコキャップ運動」に参加しています。2009年度は、28,760個の回収で約36名にワクチンを提供することができ、従業員一人ひとりが活動に参加する意識を高めています。



小さなキャップで大きな社会貢献を。



● ISO14001の取得に向けた取り組み(いばらく乳業(株))

いばらく乳業(株)では、2008年8月に「いばらく乳業環境方針」を発表し、ISO14001の取得に向けた活動を開始しました。2009年2月23日には、「ISO14001認証取得キックオフ大会」を開催し、その後、環境側面調査表などの必要書類の作成、各部署での作業手順の整備や環境管理責任者による環境教育の実施など、EMS構築を進めてきました。また、2009年度内にはメグミルクの協力により各工場の環境監査を見学するなど、指導・支援(P38参照)を受けました。



牛乳の製造ライン

そして2010年1月に内部環境監査、4月に審査機関による外部審査を実施した結果、当社の環境保全活動が認証に値すると認められ、2010年5月21日に晴れてISO14001認証を取得することができました。



いばらく乳業(株)外観



ISO14001認証取得キックオフ大会

● 「宮城県緑化優良工場(会長奨励賞)」受賞(みちのくミルク(株))

みちのくミルク(株)は緑豊かで環境に重きを置いた工場造りを目指しています。その成果として、2009年10月には、(財)日本緑化センターより宮城県緑化優良工場(会長奨励賞)をいただきました。見学希望も多く、2010年2月末時点で見学者2,000名を超え、PR活動にも積極的に取り組んでいます。環境保全活動においては、前述のいばらく乳業(株)と同様に、環境レベ

ルの向上を合言葉に日々行動し、地域住民の方々から高い信頼をいただくため努力した成果が内部環境監査、外部審査を経て認められ、2010年5月21日にISO14001認証を取得しました。



「牧場の朝」の製造ライン



「メグミルク牛乳」の製造ライン



みちのくミルク(株)外観



宮城県緑化優良工場(会長奨励賞)受賞





環境負荷を軽減するために

雪印メグミルクグループは、環境負荷を軽減するために、環境に配慮した容器・包装の開発や廃棄物の排出抑制・リサイクル化などの取り組みを推進しています。

● 容器包装の取り組みによる 「ガラスびんアワード2009」“環境優秀賞”の受賞 MEGMILK

メグミルクではこれまで使用していた軽量ビンに樹脂コートを施すことにより、さらにビンを軽量化しました。

これにより、ビンへのキズが付きにくくなり、強度の劣化が少なく、ビンをより長い期間使用することができます。ビンの重量も189gから140gへと約26%軽量化しました。これらの取り組みが評価され、日本ガラスびん協会主催の第6回「ガラスびんアワード2009」において“環境優秀賞”を受賞しました。



第6回「ガラスびんアワード2009」出席者



● 容器包装の軽量化などの取り組みによる 「2009日本パッケージングコンテスト」“食品包装部門賞”の受賞 ❄️ 雪印

雪印メグミルクグループでは、限りある資源を有効に利用するための検討を行なっています。雪印乳業(株)では、マーガリン「ネオソフト320g」用容器の軽量化に取り組み、本体の容器重量を従来と比較して約25%削減することに成功しました。この改良により、年換算で約200tの樹脂使用量削減が実現できます。また、合わせて容器の軽量化に伴う強度低下を防止するために、容器本体と蓋の噛み合わせ構造を工夫しました。さらに、ユニバーサルデザイン  を意識して、胴体部分に従来容器よりも目の粗い特殊加工を施し、マーガリンが付着しても滑りにくく持ちやすくしました。これらの取り組みが評価され、社団法人日本包装技術協会主催の「2009

日本パッケージングコンテスト」において“食品包装部門賞”を受賞しました。



「ネオソフト320g」の容器とパッケージ

 **ユニバーサルデザイン**: 年齢や障がいにかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能であるようにデザイン、設計すること。



● 野田工場における取り組み MEGMILK

メグミルク野田工場では、紙パック容器の廃棄製品は人手で開封して容器をリサイクルしていましたが、プラスチック容器の廃棄製品については開封することが困難なために廃棄物処理業者により焼却処理を行なっていました。そこで、多用途で使用できる破碎洗浄機を導入し、プラスチック容器はリサイクルできるようになり、併せて紙パック容器の廃棄製品も開封作業を軽減することができるようになりました。



導入した破碎洗浄機



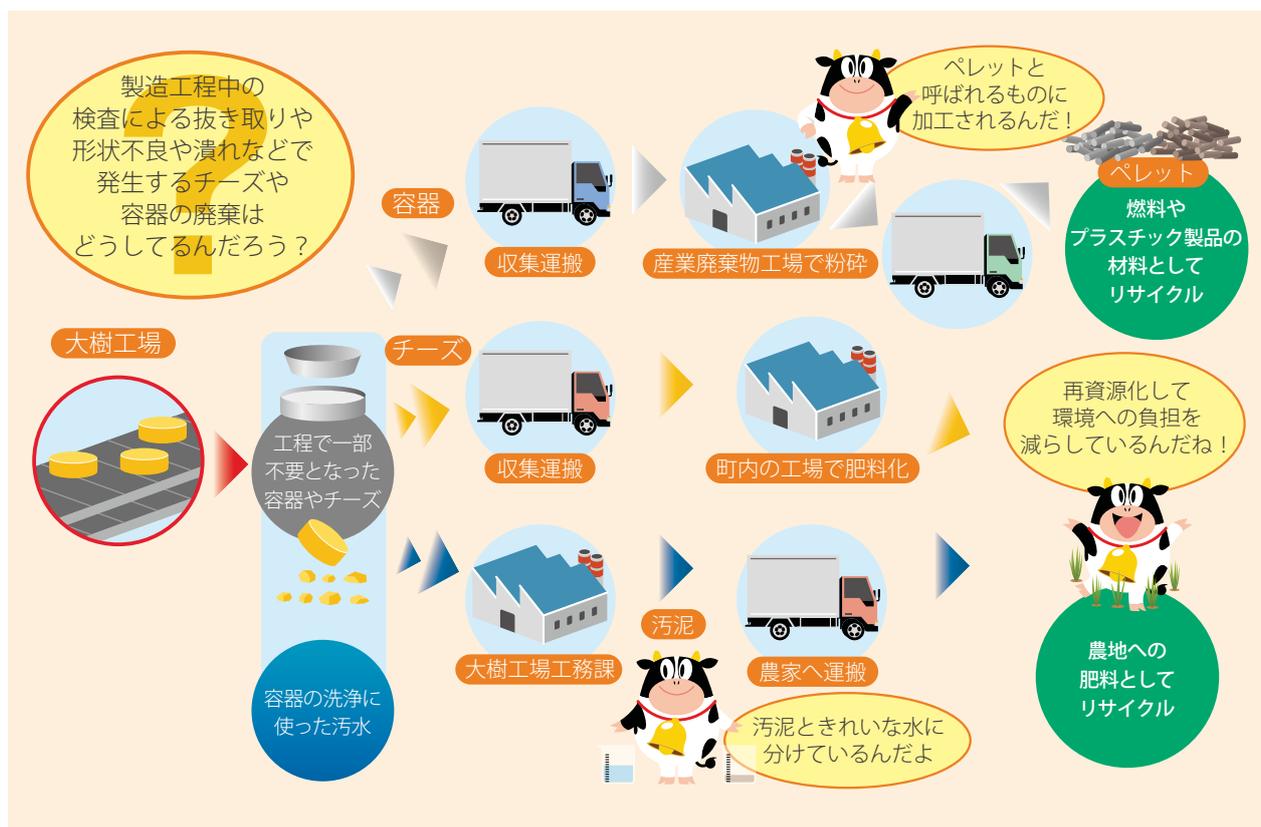
メグミルク野田工場 外観

● 大樹工場における取り組み ❄️ 雪印

雪印乳業(株)大樹工場では、環境保全活動として製造工程から出る廃棄物を単に捨てるのではなく、様々な製品に生まれ変わらせるための取り組みを行なっ

ています。廃棄チーズは肥料化、廃棄容器はペレットと呼ばれる物に加工され、燃料やプラスチック製品の材料としてリサイクルされます。

〈大樹工場の環境活動〉



雪印メグミルクグループの概要

雪印メグミルク株式会社

●会社概要

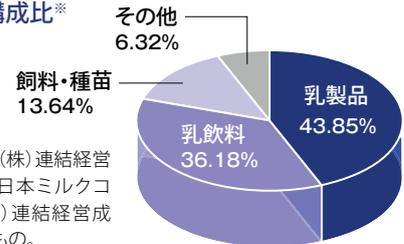
商号	雪印メグミルク株式会社 MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd.
事業内容	牛乳、乳製品および食品の製造・販売等の事業を行うグループ会社の経営管理ならびにそれに付帯・関連する事業
本店所在地	(登記上本店)札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 (本社)〒160-0003 東京都新宿区本塩町13番地
設立年月日	平成21年(2009年)10月1日
代表者の役職・氏名	代表取締役会長 小原 寛 代表取締役社長 高野瀬 忠明
資本金	200億円
決算期	3月31日

●連結経営成績

2009年度損益*
(単位:億円)

売上高	3,933
営業利益	127
経常利益	149
当期純利益	92

品目別売上構成比*



*通期雪印乳業(株)連結経営成績に、下期日本ミルクコミュニティ(株)連結経営成績を加算したものの。

MEGMILK

●会社概要

商号	日本ミルクコミュニティ株式会社 Nippon MilkCommunity Co.,Ltd.
事業内容	牛乳、乳飲料、発酵乳の製造、販売など
本店所在地	〒160-0003 東京都新宿区本塩町13番地 TEL.03-5369-6800(代表)
創業	平成15年(2003年)1月1日
代表者	代表取締役社長 難波 隆夫
資本金	142億円
従業員数	1,704名(2010年3月末現在)

雪印乳業

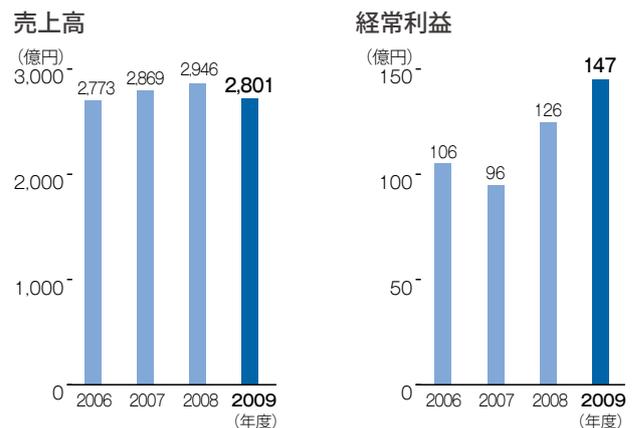
●会社概要

商号	雪印乳業株式会社 SNOW BRAND MILK PRODUCTS CO.,LTD.
事業内容	乳製品、油脂の製造、販売など
本店所在地	東京本社 〒160-8575 東京都新宿区本塩町13番地 TEL.03-3226-2111 札幌本社 〒065-0043 札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 TEL.011-704-2311
設立	1950年(昭和25年)6月10日 【創業1925年(大正14年)】
代表者	代表取締役社長 井戸田 正
資本金	148億円
従業員数	1,309名(2010年3月末現在)

●連結経営成績(監査対象外)



●連結経営成績(2009年度のみ監査対象外)



●主な事業所一覧

◎:雪印メグミルク(株) ●:日本ミルクコミュニティ(株) ■:雪印乳業(株)

○営業拠点

日本ミルクコミュニティ(株)

- 札幌支店
- 仙台支店
- 北東北支店
- 首都圏中央支店
- 首都圏西支店
- 首都圏西支店 神奈川営業所
- 首都圏北支店
- 首都圏東支店
- 上信越支店
- 上信越支店 新潟営業所
- 中部支店
- 中部支店 静岡営業所
- 中部支店 北陸営業所
- 近畿支店
- 神戸支店
- 近畿支店 京都営業所
- 中四国支店
- 九州支店
- 九州支店 長崎営業所
- 九州支店 南九州営業所

雪印乳業(株)

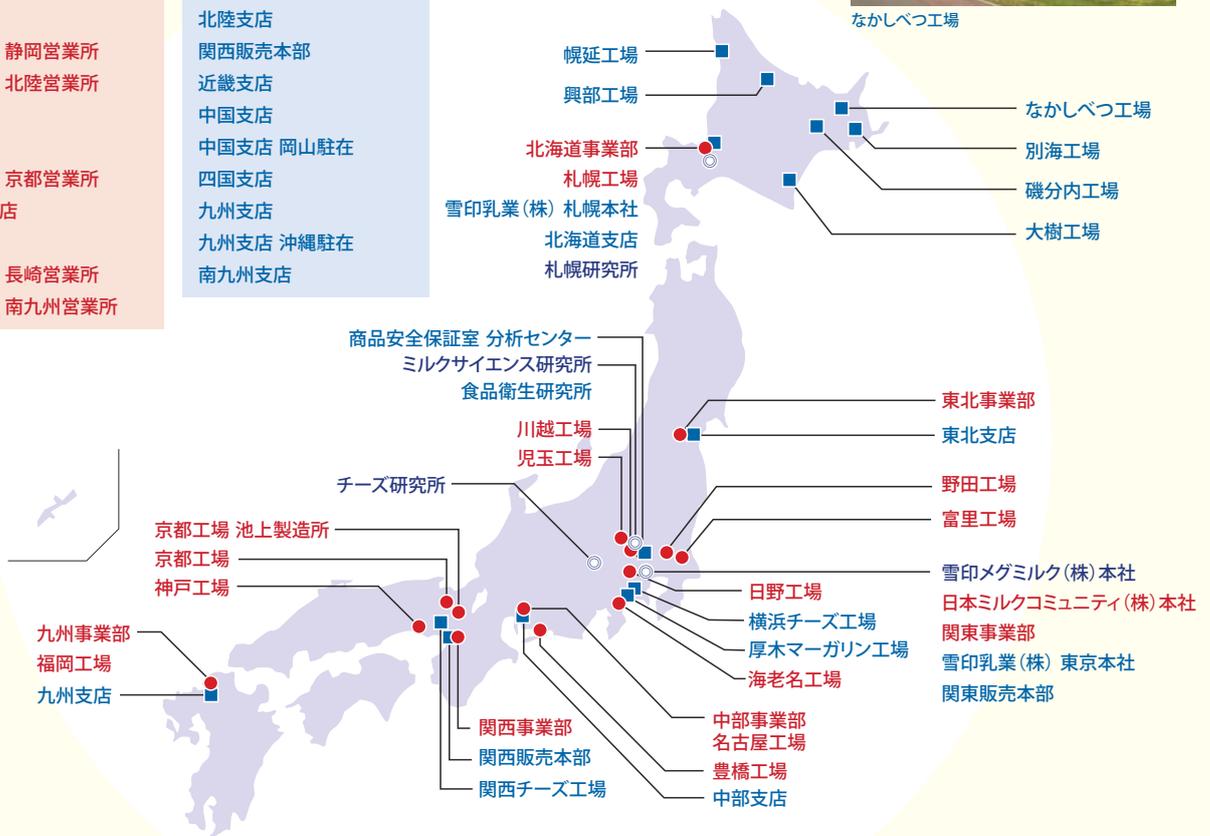
- 北海道支店
- 東北支店
- 北東北支店
- 関東販売本部
- 東京支店
- 神奈川支店
- 関東支店
- 関東支店 新潟駐在
- 中部支店
- 静岡支店
- 北陸支店
- 関西販売本部
- 近畿支店
- 中国支店
- 中国支店 岡山駐在
- 四国支店
- 九州支店
- 九州支店 沖縄駐在
- 南九州支店



札幌工場



なかしべつ工場



関西チーズ工場



川越工場



大樹工場



京都工場 池上製造所



幌延工場



豊橋工場

雪印メグミルクグループ会社紹介

雪印メグミルクグループは、お客様・消費者の楽しく健康な暮らしに貢献するために、乳への取り組み以外にも様々な事業を展開しています。

雪印種苗(株)

- 設立:昭和25年12月
- 資本金:4,643百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:北海道札幌市
- 代表者:掛村 博之
- 事業内容:種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究



代用乳「ゆきみるく」

チェスコ(株)

- 設立:昭和32年3月
- 資本金:472百万円
- グループ計持株比率:90.9%
- 所在地:東京都新宿区
- 代表者:大塚 義幸
- 事業内容:ナチュラルチーズ・食品・酒類・雑貨の輸入および製造・加工販売



京急百貨店上大岡店リニューアル

(株)エスアイシステム

- 設立:平成9年1月
- 資本金:200百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:東京都渋谷区
- 代表者:草島 憲雄
- 事業内容:チルド・フローズンを中心としたベンダー、マーチャンダイジングと共配センター運営事業



共配センター全景

ハヶ岳乳業(株)

- 設立:昭和29年1月
- 資本金:60百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:長野県茅野市
- 代表者:前田 眞志
- 事業内容:牛乳・加工乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入れ・販売、チーズの加工、運送・取扱業



好評のご当地牛乳

直販配送(株)

- 設立:昭和55年4月
- 資本金:30百万円
- グループ計持株比率:70.0%
- 所在地:東京都渋谷区
- 代表者:井上 照通
- 事業内容:共同配送センターの運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業



お客様の安心品質とともに

雪印オーストラリア(有)

- 設立:平成4年12月
- 資本金:22百万A\$
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:メルボルン(オーストラリア)
- 代表者:菅野 宏行
- 事業内容:育粉、ナチュラルチーズの製造・販売、乳製品の輸出入



製造している商品例

いばらく乳業(株)

- 設立:昭和34年1月
- 資本金:118百万円
- グループ計持株比率:95.6%
- 所在地:茨城県水戸市
- 代表者:井手 裕幸
- 事業内容:牛乳・乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売



茨城の自然から生まれた「つくば」シリーズ

(株)クレスコ

- 設立:昭和23年8月
- 資本金:38百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:東京都北区
- 代表者:佐野 和生
- 事業内容:食品資材・軟包装・紙器・容器などの仕入販売



販売している包装材

みちのくミルク(株)

- 設立:平成8年10月
- 資本金:467百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:宮城県大崎市
- 代表者:山本 純
- 事業内容:牛乳・乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売



本社工場外観



三和流通産業(株)

- 設立:昭和29年1月
- 資本金:450百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:埼玉県さいたま市
- 代表者:竹本 行雄
- 事業内容:日配チルド食品等の卸売事業、共配センター事業



本社・浦和事業所

ビーンスターク・スノー(株)

- 設立:平成14年8月
- 資本金:500百万円
- グループ計持株比率:80.0%
- 所在地:東京都新宿区
- 代表者:林 茂
- 事業内容:育児用粉乳・離乳食などの育児関連商品および機能的食品などの研究開発・製造・販売



マタニティ用
葉酸+鉄 タブレット

(株)雪印パーラー

- 設立:昭和36年4月
- 資本金:30百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:北海道札幌市
- 代表者:川成 眞美
- 事業内容:食堂・売店経営、乳製品などの販売



話題の新デザート
「さぼろタワー」

甲南油脂(株)

- 設立:平成4年7月
- 資本金:100百万円
- グループ計持株比率:51.0%
- 所在地:兵庫県神戸市
- 代表者:丸井 公男
- 事業内容:食用油脂類などの製造販売



受託生産している
ネオソフト

(株)YBS

- 設立:昭和46年4月
- 資本金:30百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:東京都新宿区
- 代表者:水口 恒夫
- 事業内容:ビルの総合保守管理、損害保険代理業、建築工事の施工



各事業を支えるスタッフ

MCビジネスサポート(株)

- 設立:平成19年4月
- 資本金:10百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:東京都新宿区
- 代表者:本木 恒治
- 事業内容:自販機・冷蔵庫の販売・保守、社宅管理、営業活動支援、品質保証・生産技術支援等



執務風景

ニチラク機械(株)

- 設立:昭和29年4月
- 資本金:50百万円
- グループ計持株比率:53.0%
- 所在地:埼玉県さいたま市
- 代表者:内田 博視
- 事業内容:食品・化学機器などのプラント設計および施工・製造など



チーズ乳化釜

台湾雪印(株)

- 設立:平成4年12月
- 資本金:7百万NT\$
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:台北(台湾)
- 代表者:小原 康嗣
- 事業内容:育粉、乳製品等の輸入・販売



取り扱い商品例

グリーンサービス(株)

- 設立:昭和55年11月
- 資本金:30百万円
- グループ計持株比率:70.0%
- 所在地:東京都調布市
- 代表者:林 哲郎
- 事業内容:共同配送センター運営事業、一般貨物運送事業、自動販売機事業



殺菌乳輸送車

(株)雪印こどもの国牧場

- 設立:昭和40年8月
- 資本金:10百万円
- グループ計持株比率:100.0%
- 所在地:神奈川県横浜市
- 代表者:寺西 正俊
- 事業内容:牧場運営、牛乳の製造、乳しぼり体験の風景
食堂・売店経営



乳しぼり体験の風景

道東飼料(株)

- 設立:平成13年7月
- 資本金:300百万円
- グループ計持株比率:60.0%
- 所在地:北海道釧路市
- 代表者:長尾 漱
- 事業内容:配合飼料の製造・販売



事務所と工場の外観

(有)ロイヤルファーム

- 設立:平成13年2月
- 資本金:10百万円
- グループ計持株比率:44.5%
- 所在地:青森県十和田市
- 代表者:寺栖 喜久男
- 事業内容:肉牛の肥育・販売



本社事務所と社員



詳細説明

P.11 企業倫理委員会

第1期企業倫理委員会委員

社外委員	日和佐 信子	前 全国消費者団体連絡会事務局長	企業倫理委員会委員長 雪印メグミルク(株)社外取締役
	江澤 郁子	日本女子大学名誉教授	医学博士・栄養学の有識者
	松本 邦明	一般社団法人経営倫理実践研究センター 常務理事 主幹研究員	企業倫理の有識者
	高谷 幸	日本食品衛生協会 常務理事	品質の専門家
	小澤 理恵子	前 日本生活協同組合連合会共済事務センター部長スタッフ	消費者関連の有識者
労働組合	梁瀬 捨治	長島・大野・常松法律事務所 弁護士	法律の専門家
	遠山 二郎	雪印乳業労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	木村 一郎	日本ミルクコミュニティ労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
	中野 吉晴	雪印メグミルク(株)専務取締役	雪印メグミルク(株)の代表
	河野 博人	日本ミルクコミュニティ(株)代表取締役副社長	日本ミルクコミュニティ(株)の代表
	川成 眞美	雪印乳業(株)代表取締役副社長	雪印乳業(株)の代表

企業倫理委員会専門部会委員

品質部会

社外委員	高谷 幸	品質部会長 日本食品衛生協会常務理事 (企業倫理委員会委員 兼任)
	日和佐 信子	前 全国消費者団体連絡会事務局長 (企業倫理委員会委員 兼任)
	佐藤 邦裕	日本生活協同組合連合会 本部長スタッフ 品質管理担当(品質部会 専任)
	小沼 博隆	東海大学教授・医学博士 HACCPの専門家(品質部会 専任)
社内委員	和田 高志	雪印メグミルク(株) 品質管理部長(品質部会 専任)

消費者部会

社外委員	小澤 理恵子	消費者部会長 (企業倫理委員会委員 兼任) 前 日本生活協同組合連合会共済事務センター 部長スタッフ
	日和佐 信子	前 全国消費者団体連絡会事務局長 (企業倫理委員会委員 兼任)
社内委員	中野 吉晴	雪印メグミルク(株)専務取締役 (企業倫理委員会委員 兼任)

表示部会

企業倫理委員会委員および社内関係部署にて構成
※ 必要に応じて、社外有識者を招聘

委嘱期間

初年度は2009年10月1日から2010年6月30日(次年度以降は、7月1日から6月30日)

P.11 企業倫理委員会 実施状況

(対象期間：2009年10月～2010年3月)

1. 定例委員会(6回)

(1) 主な討議事項

- ・ 今後の企業倫理委員会の活動内容について
- ・ 定例報告内容について
- ・ 平成22年1月の全社統一CSR活動実施内容について
- ・ 「食の責任」の内容整理について
- ・ 「雪印メグミルクグループ活動報告書2010」の内容について
- ・ 「雪印メグミルクグループCSR社員アンケート」の内容について

(2) 主な報告事項

- ・ 雪印メグミルクグループ グループメッセージについて
- ・ 雪印メグミルクグループ中期経営計画の内容について
- ・ CSR委員会実施内容(第1・2回)
- ・ 平成22年3月期決算短信(第2・3四半期分)
- ・ 雪印乳業(株)「お客様モニター」実施内容について
- ・ 雪印家庭用商品の表示改善の取り組み進捗状況
- ・ 平成22年度 雪印メグミルク食育・普及方針について

(3) 月次定例報告事項

- ・ 部会実施報告(品質部会、消費者部会)
- ・ 苦情分析結果報告(発生件数、苦情内容、発生原因、他)
- ・ 広報概況報告(社内外情報発信内容、お客様の声入電概要、マスコミ報道概況、他)
- ・ CSRグループ活動実施概要
- ・ ホットライン通報状況

P.15 企業倫理活動

●雪印乳業大阪工場食中毒事件

2000年6月に雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。6月27日大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株)大樹工場で製造された脱脂粉乳が停電事故で汚染され、それを再溶解して製造した脱脂粉乳を大阪工場で原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって社会に牛乳、乳製品をはじめとする加工食品の製造に、不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えてしまいました。

●雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、対象となる国産牛肉を安価な輸入牛肉とすり替えて申請し、交付金を不正に受給したもので、明らかな詐欺事件。2002年1月23日の朝日、毎日両新聞に掲載されたことで発覚しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で、消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。

P16 ホットラインの投稿状況

内容	会社名	2007		2008		2009上期		2009下期	
		社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内
人間関係について	日本ミルクコミュニティ(株)	3	3	2	1	0	1	1	9
	雪印乳業(株)	4	13	1	4	1	0		
品質について	日本ミルクコミュニティ(株)	0	0	0	0	0	0	0	1
	雪印乳業(株)	0	1	0	1	0	0		
風土改革について	日本ミルクコミュニティ(株)	0	2	0	0	0	1	0	1
	雪印乳業(株)	0	0	0	0	0	0		
コンプライアンスについて	日本ミルクコミュニティ(株)	0	1	0	2	0	0	0	4
	雪印乳業(株)	2	4	4	4	2	2		
その他	日本ミルクコミュニティ(株)	1	0	4	0	0	0	1	4
	雪印乳業(株)	4	10	0	3	1	2		
合計	日本ミルクコミュニティ(株)	4	6	6	3	0	2	2	19
	雪印乳業(株)	10	28	5	12	4	4		

社外：社外（弁護士）ホットライン[社外通報相談窓口]
社内：雪印メグホットライン[グループ社内通報相談窓口]

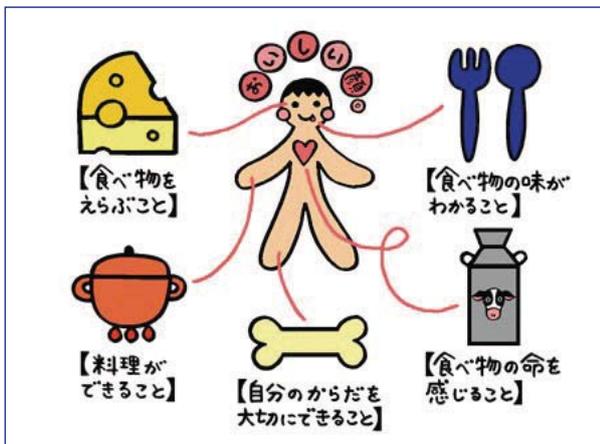
P28 酪農諮問委員会 委員一覧

諮問委員	氏名	所属
	丹羽 忠文	元べつかい農協代表理事組合長、酪農生産者
	松川 美雄	元いわて奥中山農協代表理事専務、酪農生産者
	澤 弘之	元全国農業協同組合連合会酪農部長
	鈴木 宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	矢坂 雅充	東京大学大学院経済学研究科准教授
	小林 信一	日本大学生物資源科学部教授

(敬称略)

P31 5つの大切なこと

食育は、栄養に関する知識だけを学ぶことではありません。豊かな自然からいただく命の恵みの尊さを感じ、それを五感で味わう感性を養う、「食の大切さと尊さ」を学ぶことです。雪印メグミルクグループでは、そのためには次の5つが大切なポイントと考えています。



P31 見学可能な工場・史料館の連絡先

雪印乳業(株) 大樹工場

〒089-2155 北海道広尾郡大樹町緑町35
TEL：01558-6-2121

雪印乳業(株) 横浜チーズ工場

〒226-0012 神奈川県横浜市緑区上山1-15-1
TEL：045-933-7202

雪印乳業史料館

〒065-0043 北海道札幌市東区苗穂町6-1-1
TEL：011-704-2329

日本ミルクコミュニティ(株) 札幌工場

〒065-0043 北海道札幌市東区苗穂町6-1-1
TEL：011-704-2329(受付は雪印乳業史料館で行なっています。)

みちのくミルク(株) 本社工場

〒989-6412 宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1
TEL：0229-72-2011

日本ミルクコミュニティ(株) 野田工場

〒278-0013 千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1
TEL：04-7122-2246

日本ミルクコミュニティ(株) 海老名工場

〒243-0422 神奈川県海老名市中新田5-26-1
TEL：046-231-1211

日本ミルクコミュニティ(株) 豊橋工場

〒441-0105 愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79
TEL：0533-78-3711

日本ミルクコミュニティ(株) 京都工場

〒629-0161 京都府南丹市八木町美里紫野1番地
TEL：0771-43-2150

日本ミルクコミュニティ(株) 京都工場 池上製造所

〒629-0112 京都府南丹市八木町池上古里1番1
TEL：0771-42-6871

日本ミルクコミュニティ(株) 神戸工場

〒651-2124 兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1
TEL：078-912-2121

●工場・史料館の見学のご案内

工場・史料館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場・史料館にお電話でご予約願います。

●工場見学を一部工場のみとした理由について

見学ができない一部工場は、見学施設体制が十分に整っていない現状にあります。そのため衛生管理の観点から、工場見学を控えさせていただいています。

詳細説明

P32 小中学校への食育授業

2009年度 食育授業 実施小中学校一覧

地域	都道府県	小中学校名	
北海道	北海道	清里町立清里小学校、大樹町立中島小学校 札幌市立北都小学校、札幌市立福移小学校 他4校	
	宮城県	仙台市立台原小学校、仙台市立八幡小学校 塩竈市立第二小学校 他1校	
関東	茨城県	神栖市立大野原西小学校、神栖市立深芝小学校 神栖市立太田小学校、行方市立小高小学校 鹿嶋市立高松中学校、鹿嶋市立鹿野中学校 牛久市立神谷小学校	
	神奈川県	川崎市立千代ヶ丘小学校、川崎市立長尾小学校 他1校	
	埼玉県	春日部市立宮川小学校、三郷市立花小学校 三郷市立八木郷小学校	
	千葉県	野田市立山崎小学校、白子町立南白亀小学校 印西市立原小学校、茂原市立南中学校 東金市立源小学校、昭和学院小学校	
	栃木県	佐野市立葛生南小学校	
	東京都		足立区立大谷田小学校、足立区立中川小学校 足立区立西新井第二小学校、足立区立本木小学校 足立区立粟島小学校、足立区立弥生小学校 江戸川区立二之江第三小学校、江戸川区立臨海小学校 江戸川区立南葛西第二中学校、江戸川区立松江小学校 江戸川区立篠崎第二中学校、大田区立萩中小学校 大田区立久原小学校、大田区立馬込小学校 北区立谷端小学校、北区立なでしこ小学校 北区立滝野川第二小学校、葛飾区立東金町中学校 品川区立宮前小学校、新宿区立余丁町小学校 新宿区立江戸川小学校、新宿区立落合第六小学校 新宿区立東戸山小学校、新宿区立牛込第三中学校 新宿区立西戸山第二中学校、杉並区立永福小学校 墨田区立隅田小学校、墨田区立中和小学校 墨田区立花吾嬢の森小学校、墨田区立小梅小学校 世田谷区立深沢小学校、中野区立谷戸小学校 中野区立西中野小学校、文京区立金富小学校 文京区立湯島小学校、文京区立第九中学校 港区立赤羽小学校、港区立御田小学校 目黒区立鷹番小学校、調布市立第三中学校 調布市立調和小学校、西東京市立谷戸小学校 東大和市立第九小学校、稲城市立稲城第一小学校 府中市立府中第九小学校、多摩市立東愛宕中学校 多摩市立多摩中学校、高尾山学園、玉川聖学院 あきる野市立戸倉小学校、あきる野市立秋多中学校 東京都立白鷗高等学校付属中学校 町田市立町田第二中学校 他3校
		愛知県	西尾市立八ツ面小学校、大府市立大府中学校 他2校
		岐阜県	神戸町立下宮小学校、多治見市立北栄小学校
		石川県	小松市立芦城小学校
		近畿	大阪府
三重県			松阪市立中川小学校、桑名市立藤が丘小学校 菟野町立竹永小学校、鈴鹿市立国府小学校

地域	都道府県	小中学校名
近畿	奈良県	大和高田市立陵西小学校、奈良市立富雄北小学校 平群町立平群東小学校、平群町立平群南小学校
	滋賀県	長浜市立富永小学校、守山市立吉身小学校 甲賀市立土山小学校、豊郷町立豊郷小学校 豊郷町立日栄小学校、守山市立守山南中学校 甲賀市立城山中学校
	京都府	長岡京市立神足小学校
	兵庫県	神戸市立塩屋北小学校、宝塚市立小浜小学校 丹波市立青垣中学校、佐用町立久崎小学校 宝塚市立安倉小学校、宍粟市立一宮北中学校
中国	広島県	広島市立神崎小学校、坂町立坂小学校
	鳥取県	鳥取市立青谷小学校
	島根県	雲南市立中野小学校
四国	徳島県	阿南市立新野小学校
九州		2校

全134校

P34 先天性代謝異常症用特殊粉乳の提供

雪印乳業(株)が製造・供給している医薬品2品と登録特殊ミルク8品

	品名	対象患者	2009年度年間 出荷量(概算 kg)
医薬品	フェニルアラニン除去ミルク配合散「雪印」※1	フェニルケトン尿症	18,300
	ロイシン・イソロイシン・バリン除去ミルク配合散「雪印」※2	メーブルシロップ尿症	1,600
登録品	雪印フェニルアラニン無添加総合アミノ酸粉末(A-1)	フェニルケトン尿症	410
	雪印メチオニン除去粉乳(S-26)	ホモシスチン尿症	790
	雪印フェニルアラニン・チロシン除去粉乳(S-1)	チロシン血症	160
	雪印蛋白除去粉乳(S-23)	高アンモニア血症、他	2,300
	雪印イソロイシン・バリン・メチオニン・スレオニン除去粉乳(S-10)	メチルマロン酸血症	370
	雪印イソロイシン・バリン・スレオニン除去粉乳(S-20)(2010年3月末供給終了)	メチルマロン酸血症	40
	雪印イソロイシン・バリン・メチオニン・スレオニン・グリシン除去粉乳(S-22)	プロピオン酸血症	1,800
雪印リジン・トリプトファン除去粉乳(S-30)	グルタル酸血症Ⅰ型	290	

※1 2009年12月1日より、名称を変更しました(旧名称:雪印新フェニルアラニン除去ミルク)。
 ※2 2009年12月1日より、名称を変更しました(旧名称:雪印新ロイシン・イソロイシン・バリン除去ミルク)。

P.35 人財の活躍に向けて

従業員の状況(日本ミルクコミュニティ(株))

各年度末3月31日現在(単位:人)

	2007年 (H19)	2008年 (H20)	2009年 (H21)	人数の対象	備考
従業員数(連結)	2,313	2,404	2,291	連結会社計	
従業員数(個別)	1,710	1,775	1,704	日本ミルクコミュニティ(株)	
男性	1,562	1,606	1,529		
女性	148	169	175		
女性管理職	2	1	1	日本ミルクコミュニティ(株)	女性管理職数/ 総管理職数
女性管理職比率(%)	0.5%	0.2%	0.3%		
平均年齢(歳)	41.0	40.9	40.5	日本ミルクコミュニティ(株)	
平均勤続年数(年)	4.88	5.5	6.2	日本ミルクコミュニティ(株)	
障がい者雇用	39	46	47	日本ミルクコミュニティ(株)	2010年6月1日現在
障がい者雇用率(%)	1.65%	1.87%	1.89%		
育児休職利用者	8	3	3	日本ミルクコミュニティ(株)	
内育児休職男性社員利用者	0	0	0		
看護休暇制度利用者 のべ人数	0 0	0 0	15 63	日本ミルクコミュニティ(株)	
短時間勤務制度利用者 のべ人数	-	-	2	日本ミルクコミュニティ(株)	

従業員の状況(雪印乳業(株))

各年度末3月31日現在(単位:人)

	2007年 (H19)	2008年 (H20)	2009年 (H21)	人数の対象	備考
従業員数(連結)	2,646	2,679	2,462	連結会社計	
従業員数(個別)	1,376	1,397	1,309	雪印乳業(株)	
男性	1,190	1,206	1,128		
女性	186	191	181		
女性管理職	4	5	4	雪印乳業(株)	女性管理職数/ 総管理職数
女性管理職比率(%)	1.46%	1.79%	1.79%		
平均年齢(歳)	39.7	39.9	39.6	雪印乳業(株)	
平均勤続年数(年)	17.2	17.3	17.1	雪印乳業(株)	
障がい者雇用	39	39	35	雪印乳業(株)	2010年6月1日現在*
障がい者雇用率(%)	1.55%	1.60%	1.45%		
育児休職利用者	13	11	15	雪印乳業(株)及びビーンスターク・ス ノー(株)及び雪印メグミルク(株)出向者	
内育児休職男性社員利用者	2	4	8		
子育て支援休暇利用者 のべ人数	12 26	18 43	17 42	雪印乳業(株)及びビーンスターク・ス ノー(株)及び雪印メグミルク(株)出向者	2005年10月1日制度導入
看護休暇制度利用者 のべ人数	27 96	36 144	30 152	雪印乳業(株)及びビーンスターク・ス ノー(株)及び雪印メグミルク(株)出向者	2005年10月1日制度導入 2008年10月1日制度改定 (5日⇒10日/年)
短時間勤務制度利用者 のべ人数		3	9 11	雪印乳業(株)及びビーンスターク・ス ノー(株)及び雪印メグミルク(株)出向者	2008年10月1日制度導入

※ 法定雇用率(1.8%)の達成に向け積極的な採用活動に取り組んでいます。

ステークホルダーからのメッセージ

- ①雪印メグミルクグループの取り組みへのご意見・評価
- ②雪印メグミルクグループに期待すること



日本女子大学名誉教授
東京骨を守る会 会長
江澤 郁子様

この度の経営統合は、「やっと、待ちに待ったその時が来た!」という思いでした。雪印乳業(株)の原点は、1925年に危機におちいった酪農を盛んにし、牛乳・乳製品を日本中の人びとの食生活と健康に役立てたいという願いだったからです。その企業魂・企業倫理を、全職員の一人ひとりが肝に銘じ、all for one, one for allの自覚と責任をもって取り組んでほしいと切望しています。私自身、約40年間をカルシウム代謝研究に取り組んでおり、この牛乳・乳製品が国民の健康にいかに重要な役割を果たしているかを痛感しています。日本は飽食の時代といわれて久しいにもかかわらず、未だにカルシウム摂取量が不足している一方で、メタボリックシンドロームが大きな課題となっています。牛乳・乳製品の摂取習慣が、これらの改善に大きな効果を示すことは、国内外の研究で報告されています。情報時代といわれる今日こそ、この巧妙な力を包含する牛乳・乳製品が国民の食生活に、ますます定着するよう、心から期待しています。



道東あさひ農業協同組合
代表理事組合長
原井 松純様

- ① 昨年1月に雪印乳業(株)と日本ミルクコミュニティ(株)に共同持株会社である「雪印メグミルク株式会社」を設立し、10月には経営統合されましたが、その間、多くの苦難を乗り越え「酪農と消費者をつなぐ企業」として地域酪農産業にしっかりと根付いた取り組みをされており、特に管内におけるチーズ工場の建設はまさに酪農主産地消費者をつなぐ取り組みでありましたし、当地における草地簡易更新技術とケレス(アルファルファ種)播種の普及は御社グループによる北海道包括連携協定のもと、雪印種苗(株)と生産者が密接に関わった取り組みであり、酪農現場に主眼をおく御社の基本理念によるものと受け止めております。今後も変わらぬ組織風土を貫いて頂き、共に協調しながら歩んで参りたい。
- ② 御社の創業精神である「健士健民」は、いつの時代も変わらぬものであり、「健やかな食」を通じて「培う者(農業者)・「供する者(製造者)・「受ける者(消費者)」が総じて「期待される作る喜び」と「安心して食する喜び」から得る「心の豊かさ」が、殺伐とした時代だからこそ、より多くの方々に伝えて頂きたいし、「雪印北海道100」のような販売強化など、地域生産者にとっても励みとなる乳製品開発・販売を通じて、国産乳製品消費拡大につなげる取り組みも是非お願いしたい。



津田塾大学
ライティングセンター特任教授
ジャーナリスト
大原 悦子様

食品会社に期待することって何だろう。考えた末の結論は、いたってシンプルでした。「嘘をつかないこと。」子どもからお年よりまで、だれもが口にするミルクやバター・チーズなどを扱う会社なら、なおさらです。嘘をつかず、まじめにつくった商品を、嘘をつかず、大切に売る。食品会社にとってこれこそが消費者に対する何よりの社会貢献ではないでしょうか。それを踏まえたうえで、さらなる社会貢献の可能性もあります。たとえば、私に関心を持っているフードバンクという活動。品質にはまったく問題がないのに、通常の販売ルートにはのせられない食品を、福祉施設・団体などに無償で届ける活動です。アメリカでは40年以上の歴史があり「食品会社がフードバンク活動に関心を持つのは当然」という認識が一般的です。安全でおいしい食品を、一人でも多くの人に届ける。その「一人でも」のなかに「恵まれない人たち」「十分な食料を手に入られない人たち」も含めるといふ発想が加われば、私たちの社会はもっとやさしくなる気がします。



(社)全国消費生活
相談員協会 顧問
下谷内 富士子様

② 雪印メグミルクグループの「未来は、ミルクの中にある。」このメッセージは消費者と生産者をつなぐコミュニティという言葉にあるように、企業が消費者や生産者のみでなく社会全体に対し、責任と義務を持ったことを大きく公表することである。

これは、2000年の事件を風化させないことと経営理念を積極的に進めていくことと考える。経営者の耳に消費者、生産者その他関連する方々の声がいつでも届くように、企業におけるシステムの構築と迅速かつ透明性のある行動ができるようになることが必要である。

雪印メグミルクグループとして6つの新たな行動規範が設けられたことは、社会全体に対し、安全・安心な生活を守ることを示しているものと強く感じる。そのためには今後一つの企業として組織の充実が図られ、企業として社会的責任を果たすことを強く期待する。



全国牛乳流通改善協会会長
全国メグミルク協議会前会長
松尾 和重様

① 私たち牛乳販売店は、平成12年からの度重なる不祥事を経て、大変な苦労をしてきました。「雪印ブランド」が瞬間に失墜し、回復に至る過程の中、今度は「メグミルク」のもとで商売を続けて参りました。ブランドの創成期から、その普及、発展にむけ、販売者として携われたことは、大変貴重な経験でありましたし、幾多の辛い経験があったからこそ、どのマークの販売店より、品質にこだわり、お客様対応に十分な取り組みをしてきました。また、メーカーの品質に対する責任感、以前とは格段の違いを感じます。

② 牛乳販売店は、宅配を通じて、消費者と直接繋がっていますので、お客様の声を聴かせて頂く機会が数多くあります。日々、お客様と接している私たちは、企業が作り出す安全・安心な商品を、安全・安心な品質でお客様へお届けすることが私たちの仕事です。企業として、そのための不断的な努力を継続されることは勿論のこと、雪印乳業(株)との経営統合により、より一層、グループとして社会的責任の追求をされることを期待します。



雪印メグミルク株式会社
海外事業部
海外事業グループ
辻本 越子

私は雪印タイ(株)で2009年8月から研修生として学んでいます。雪印タイ(株)はタイで乳児用から幼児用までの粉ミルクを輸入・製造・販売する現地法人です。私は研修を通じて、国籍が違っても雪印の粉ミルクを提供するために日々努力し活躍している方々の存在を知りました。そして、世界的ブランドの粉ミルクが数多くある中から雪印の粉ミルクを信頼して手にして頂けるお客様がいることに「雪印メグミルクグループ」の一員として大きな喜びと、身の引き締まる思いを感じています。

「雪印メグミルクグループ」が今あるのは、酪農家の方々、お客様、ミルクの中の可能性を信じて研究・開発・製造・普及活動に努力を重ねてきた多くの先輩方の支えがあったからだと思います。そして今も様々な方々に支えられていると感じています。日本のみならず世界にも「雪印メグミルクグループ」商品のお客様やグループの仕事に携わっている人々がいることも忘れずにいてほしいと思います。

雪印メグミルクグループの「活動報告書2010」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「活動報告書2010」をご覧ください、ありがとうございます。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。今後の雪印メグミルクグループの企業活動や報告書作成に反映していきたいと考えております。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただきますようお願い申し上げます。

本誌をご希望の方は、日本ミルクコミュニティ(株)または雪印乳業(株)フリーダイヤルへご連絡願います。

●日本ミルクコミュニティ お客様センター 0120-464-369(9:00~17:00)
●雪印乳業 お客様センター 0120-369-114(9:00~19:00年中無休)

雪印メグミルク(株)ホームページでも、本報告書を公開しております。

「社会的責任への取り組み」
<http://www.megmilk-snowbrand.co.jp>



微笑みの国からお届けします



この笑顔へ、日々思いをこめて

ミルクを通じて届ける、 私たちの思い

私たち雪印メグミルクグループは、『未来は、ミルクの中にある。』というグループメッセージを掲げ、未来を創造する新総合乳業メーカーとしての新たな一歩を踏み出しました。

蓄積してきた技術と、ミルクにこだわりその価値を社会に提供してきた自負のもと、「安全で安心していただける」商品を提供し続けていく責任は、今後も決して変化することはありません。

ミルクに眠る未知の可能性を信じ、その無限のパワーを信じているからこそ、私たち雪印メグミルクグループは未来を切り拓いていく強い思いと姿勢をこのグループメッセージに込めているのです。

事業活動の基本は、現場にこそあります。

これまでに社員一人ひとりが培ってきた技術、積み重ねてきた経験は、職種や立場によって必ずしも同じではないかもしれません。

しかし、私たちの商品によって驚きと感動を送り届けるという使命、人々の心と体を健康的に支えたいという思いは一つです。

生産者から消費者をつなぐコミュニティを築き、ミルクの中に未来を見つめる雪印メグミルクグループ。その事業を支えている社員一人ひとりが大切にしている存在や届けたい思いをご紹介します。



牛乳飲んで大きくなってね



みんなの笑顔のために



希望!



世界のチーズを私たちがカットしています



相手への思いやり



職場では真剣に



ミルクは元気の源!



おいしさと笑顔



離れていても、心は一つ



お客様に笑顔をお届けします



開発部のニューフェイス!
仕事もこの勢いでがんばります!



素敵な笑顔で

南半球より笑顔と品質を



職場の仲間の笑顔が一番!



親子のキズナを大切にすること



チームワーク



雪印メグミルクグループ

<http://www.megmilk-snowbrand.co.jp/>

この報告書の表紙は、FSC(森林管理協議会)の基準に基づき、適切な森林管理がされていると認証された森林から収穫した木材を原料として製造された用紙を使用しています。また、古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会-間伐に寄与した紙-」を本文用紙に使用しています。インクは「100%植物油のインク」を使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行なっています。



未来が変わる。日本が変わる。 **25** チャレンジ



2010年6月発行